

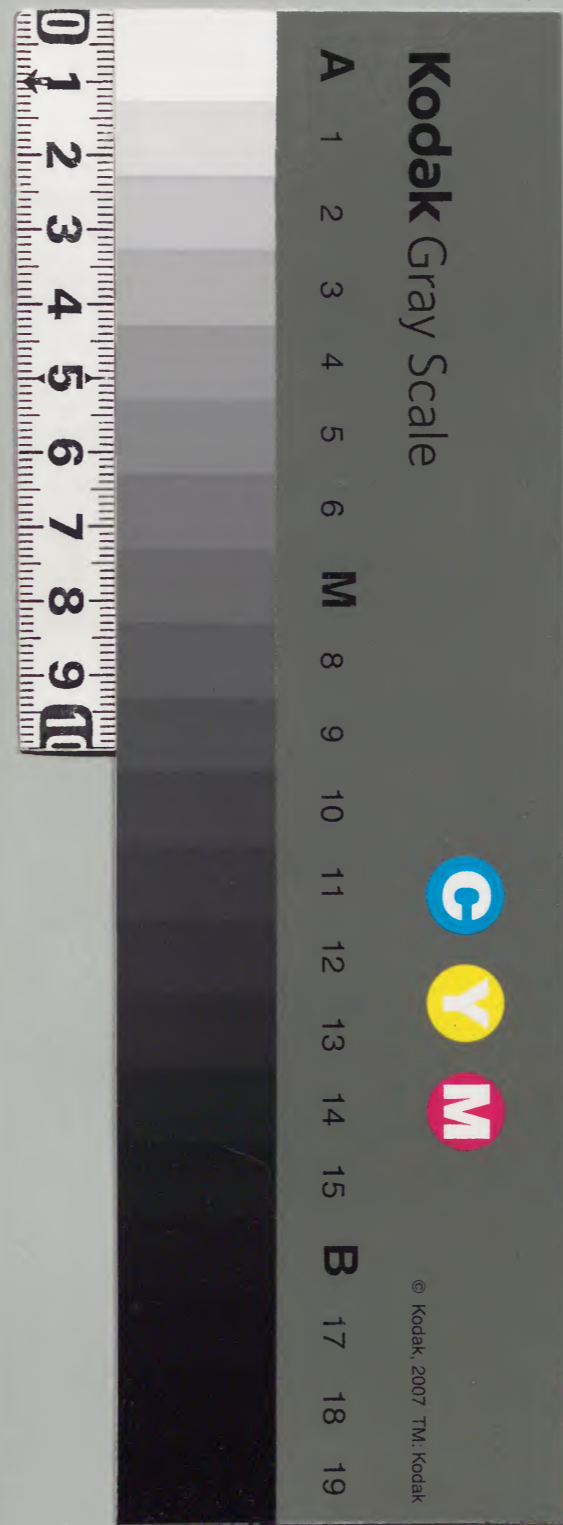
右類字
 松葉名所和歌集
 自新至志

二

和書門			
三	六	六	五
一	四	六	五
四	冊	架	函
冊	架	函	號

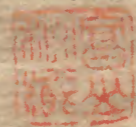
庫文閣内		和書
二〇二	三〇五	類
函	冊	架

内閣文庫		
番號	和	36665
冊數	4 (2)	
函號	202	149



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

全部四冊之内



松葉右所和歌集第三

知利奴苗遠和

千代古道

山城

葛野郡

子良也 千代乃古乃近とめて昔とてあふ松比ひる南

太上
天皇

山千代の古道詠みあふ又露多う望月の約

宣家

山代れたる貴うり春のうらみかゝるを搦喚

為家

山紅葉の錦立とて人子代のたるとく山幸

為忠

夏多れおとさきりしりれし思ひそ出りあけの古乃

冷泉
入道

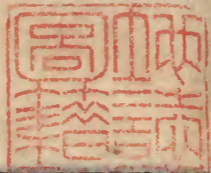
長樂寺

同

も来らふてあつる辰とよんをと懐けむの

山をさかすまよと久後やなうしむれ露也きりて
正言

長樂寺は信のちり人の許ふといひりり



續古

新右

同

後拾

新右

夫本

旅野卷三

白子坂の浦れり、まねる言のたより思ひ成す、
信濃 郵字小縣郡

風昨

行流りらく海のはれ細石と君、
ちく海川きり水とみよきり清ていらくれ歌の白雪 順徳院

正治百

水増ふらくまれ河の我るは音と伝くそ立後きり 顯仲
志久代筑摩の川りこれ名言じと岩と成はくそ
とく持の心とめれらく海川産はれ社思ひ傳りぬ 兼輔

六百番

千賀塩竈 陸奥 類字
倉そけり海とれ流のよりまとい伝しむわらく塩竈 顯昭
雲風のまといけ海の流しは楠は好やらる塩竈海 忠良

夫本

行にめて余とくも、
羨よそがれ事とみらくと神よ流こそか笑の伝くま 清賢

新兼

行てる昔のきと陸奥の思ひ出建へらく乃塩く海 経母
千波 陸奥

名寄

千波 陸奥
千女河 同 陸奥
東とららく川流よりむ我皇代の扱くと
子年 同 粟田郡 或敷聚出羽

拾遺

今年よりらとせれは色程と君承世と形が
嶺はもねの本とけくこのか先や子年れは流成流 師時
ちとせこれや昔のきれ石若るよあさ昔の多上 中務

夫本

春あちて流あちく子年と陸奥の里れ花とめり 三家

支本

勤王の子年乃山丸女御の事一ノミ代の孫なり

千酌濱

出雲

和名嶋根郡

出雲の千酌濱の事なり

千里濱

紀伊

薩摩

末遠の千里の濱日見書て

雲の千里の濱日見書て

見渡せらるる濱の外も

知多浦

に

同

八雲山抄

知多浦の事なり

支本

河津の朝漕舟は

中務

千尋濱

海

同

類聚 日高郡

千代と可きつんゆの紀の國

悪く代乃扱よらん

くらりてあつて

永さ日見較乃多

あつて繩乃多

千草嶽

同

薩摩

山家集 千草嶽の事なり

千賀浦

筑前

類字

後拾
あら浦は海にせしはしらしての浦ありてはききし浦は
新後
かひらやみらりりと共して神ありらる浦は
名寄
唐とらる浦との夜乃思ふあやうき浦舟人
同
暁のらるの浦舟をきてなありしき浦舟あり
新六
子賀の浦より煙をいひし河原とぬらるる
夫小
於思ふ浦の志らるる女舟船の浦よりらる浦舟
進信
朝長
家隆

同
暁のらるの浦舟をきてなありしき浦舟あり
新六
子賀の浦より煙をいひし河原とぬらるる
夫小
於思ふ浦の志らるる女舟船の浦よりらる浦舟
進信
朝長
家隆

同
暁のらるの浦舟をきてなありしき浦舟あり
新六
子賀の浦より煙をいひし河原とぬらるる
夫小
於思ふ浦の志らるる女舟船の浦よりらる浦舟
進信
朝長
家隆

夫小
於思ふ浦の志らるる女舟船の浦よりらる浦舟
進信
朝長
家隆

鎮西

同

拾玉
いしをれきし浦舟をらるる法じつ浦舟のむらき
慈徳

子代松島

同

新後
我君のむらきし浦舟をらるる法じつ浦舟のむらき
洞深
先明
峯寺

千早河

筑後

八雲山抄或丹抄

名寄
我君のむらきし浦舟をらるる法じつ浦舟のむらき
洞深
先明
峯寺

智可嶋

岫

肥前

仙覚抄 昔国松浦郡
千早嶋今千早河と云り

名寄
大伴の浦の浦舟をらるる法じつ浦舟のむらき
洞深
先明
峯寺

名寄
大伴の浦の浦舟をらるる法じつ浦舟のむらき
洞深
先明
峯寺

同
大伴の浦の浦舟をらるる法じつ浦舟のむらき
洞深
先明
峯寺

同
大伴の浦の浦舟をらるる法じつ浦舟のむらき
洞深
先明
峯寺

千良布山

對馬

万葉詞書二見タリ

紅葉のちりぬ山は秋のふゆひよそく出てまへに
對馬娘
子名王

近見山

未勅

思ふ人らうもれとてさうく人ゆりしれあまうつ

千江浦

同

海風のちえれうつものもつちうらりぬ後まうと人丸

思ふ人らうもれの浦にれ海まふらうあま海りと社に
新六
疾蓮

真津風られ浦の志と海を思ふあまのねはけし
知家

あつらえの浦痛し我もさうてむの波とさうとて思
祐威

千田村

同

時とえて子回村人幾もなれとあまの子名必後人時実
新拾

千里山

同

秋とて月のを井や輝じんらうとの山に雲のけり
法性寺

都思ふ我のこも秋は月程と子名のこころと
同

千入岡

同

深くをらう海の思れ夕時を程とさうあま推業
傍平

子牟浦

同

別あうらうの浦に志貝とさうと海の波のけり
祐奉

靈山

山城

心んうらうと心んうらうと云ふ事て續けり

うやえはのれは家と思ふはゆふとさるるとさるは止師尚

龍門

大和

類字

龍門乃流と見てよめる

古今 ありぬと思衣きしむるま地と何山姫の布曝婦人 侍舟

より舟のりりかう龍門より流るる奇乃

名寄 此事によめるは家の集よあり

名寄 言とみえ人海と流るる流の門よりさるる水也 素性

拾遺愚草 龍門の流は流るる言りるまよまうておぼは 定家

龍津山

未勅

名寄 言とみえ人海と流るる流の門よりさるる水也 仲正

布引滝

横津

建保百 ありぬと思衣きしむるま地と何山姫の布引の流 順徳院

名寄 ありぬと思衣きしむるま地と何山姫の布引の流 忠房

同 ありぬと思衣きしむるま地と何山姫の布引の流 後鳥羽院

家集 水の上滝のまねてなれは布引の流末と水もる 知家

拾三 ありぬと思衣きしむるま地と何山姫の布引の流 忠見

詠藻 ありぬと思衣きしむるま地と何山姫の布引の流 慈因

愚草 ありぬと思衣きしむるま地と何山姫の布引の流 俊成

同 ありぬと思衣きしむるま地と何山姫の布引の流 定家

同 ありぬと思衣きしむるま地と何山姫の布引の流 同

五吟 ありぬと思衣きしむるま地と何山姫の布引の流 同

ありぬと思衣きしむるま地と何山姫の布引の流 家隆

又本

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

伊あお我そららの神よらぬまては三布川の滝 家隆

白浪波初花ともも常陸ゆりてまき布川の滝 隆寛

山姫の袿やうら布川の滝れあそりの梅乃初花 澄光

布川の滝みよもも呼子もいし中ふ結と鳴猿 道海

世の風う吹げうあつむせりより落る布川の滝 師光

五月毎のねもまの猿打てて彩りあつる布川の滝 隆寛

布川の滝りもくふ花梅て出れ白ゆもあまらん 澄光

ふりう川を尾上の雲懸鳴り花梅とじし布川の滝 隆寛

凡海におむらうもふ布川の滝よりあまら浪うとえら 同

布川の滝れ白糸えられもく浪とくふ山姫初あつ 定家

あはよふ山の揚れ志と波よ風のうけし布川の滝 家隆

ふらう海も氷よさらしておれとら布川の滝 家隆

あまら山姫の根より何ゆへも布川の滝 家隆

津の園北那はともあはしと海もこもたら結ぬ布川の滝 同

あはまのあひも有る山姫の初てふら布川の滝 宇治

長行の雲れまのあまあはしとてお日と曝と布川の滝 源徳

きゆれ大山あまのあまあはしとて布川の滝 澄光

けりおひらうらうら布川の滝よりあまら 同

布川山

伊勢

藤塩

嵐吹雪あまらあまらと落しむし清海布川の山 長明

沼尾池

常陸

舞鶴社へ詣りてあまらなりし布川沼尾社へ

かの池の事候いさきとくわんて神代より

つとあらうりくとも思ふを何りくく運のれ
ひく眼をる者不死也本と風土記よん
五くうあいなうりた少作こくま形人作らとを
作とく

夫本
ぬまれの池のむ水神代り絶ぬや涼らういぬん

万十
潤和河 未劫

秋柏ぬるも河これとのぬふくをあひう思は海行ん
同
おりのあも川をの志れ先の思ひてぬれ者よみり
家集
なせぬも河丹志の決ふ神吹うある雄れ初も也 定家

沼入の 同

山家集
百人内
こくはくよ流ぬはれとのぬく人ほをうあふはれ
ぬも河のいれをばはうの樹れ梢ちるときり

万十三
沼右河 同

ぬか川の底ちるむの求けえそく玉うをむろひつ
えてく玉うもあありき君うむらう行くと
玉右

家集
音羽 山川流 山城 山階幕

同
妹凡の音羽の山れ音あふの流うぬ神も文とをあえ
音羽山其の下流よくをれんて流も也かほを流
同

同
とく山出水あきりて流るも君常くとも海行り也也
後
はうく音まゆつる音羽はくいも海うき海り也也
紀伊

同
相坂のけひのあよ流うく音羽れ山の紅葉ちりたり
益昌

山家集

春立と思しむるあはれを山に
春立と思しむるあはれを山に

権安 西行

拾五

東より月とわたりても
東より月とわたりても

急鎮

同

音羽山卯花うきひ
音羽山卯花うきひ

同

同

音羽河音えきく
音羽河音えきく

俊成

名寄

時鳥いづくさるゆ
時鳥いづくさるゆ

成房

同

音羽河せきさの
音羽河せきさの

同

同

音羽川せきさの
音羽川せきさの

同

同

音羽河せきさの
音羽河せきさの

定家

同

音羽河せきさの
音羽河せきさの

定家

同

音羽河せきさの
音羽河せきさの

定家

同

音羽河せきさの
音羽河せきさの

定家

同

音羽河せきさの
音羽河せきさの

定家

音羽山嶺の麓に家の松の梢かきつる多し
後松

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

音羽の流るる松の梢かきつる多し
名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

名家

柳葉と小塩の山よりして後ひりて代やま代のは

君之らんはれをとり小ね魚小塩山と後ひりて

小塩山那代の喜之契きん白しつゝあ花れ白ゆ

於敷も志しあむけて大魚小塩の山に神まら

春よあ小塩れ小ねをくゆらるるゆり来は

あまのまてけるゆり人小塩山小塩る原れ若乃

神を月鳴るるまきひの梓りてはれ山に時重し

みるまてあふまきつや小塩山小塩る魚の雲れ

時多名抄りゆりて小ね山小ね原れゆりの梓

小塩山元上れ雲の枝毎は海白雲の花と思ひ

小塩山あふりてはれまきされ初末のまき

今にれをりて小ねおまき乃あふと小塩れ山あ

小塩山和乃紫雲の河のうら若乃まき

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

小塩山小塩る原れゆりのまきとてそ

後成

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

小菟山縁の巻やおしほしと麻の巻のしきるうらと

とく山小麻の縁のうけくはあはらきすぬお思ひひ

小菟山茅の木葉巻のしほしと麻の巻のしきるうらと

谷の川の小菟のしほしと麻の巻のしきるうらと

紅雲の川小倉の山花つくとまるとの指と下草よと

霧の川とくまの綿もあよとれうらと山花路凡

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

とく山小菟の山花お葉もとまるとまるとくまの綿もあよとれうらと

愛宕里

山城

和名三苗国愛宕郡

まよ 乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

小野山

同

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

乃の國乃がとれぬのの国乃をさる死乃里の大なる

詠藻

松葉巻三

烟の列小那れ炭の留考はして留考ある恨の心は狂れ

新六 其れ来くる小野の細な秋後てゆくも冬は夢のけり水 為家

月清 けはの氷がれ里の心と海をさす旅やと旅にたあふひく 後京極

懸草 小野の岩をく岩窟の烟少く冬立ぬと人争にけりなる 定家

同 春の心も里れ名のともあるらん春は後てさす旅芽生 同

五吟 内をて小那の海芽生と烟よりわらふと心ひやうま 家隆

御集 けりは又手と死衣は月河てさしあふとあはれあはれ 後鳥羽

山城 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

同 山城 摩福

世屋

同

和名三ノ海郡

山城集 少くもあふとれなは程う海で月野けりむと物人 西行

史本 月とれなあふとれなは程う海で月野けりむと物人 後人 不知

同 山城集

同 山城集

同 山城集

同 山城集

同 山城集

同 山城集

同 山城集

同 山城集

同 山城集

同 山城集

同 山城集

同 山城集

小鞍嶺

大和

類字

万工 白雪の秋田のしれ流りよれとくくの原上とせり

同 白雪の秋田のしれ流りよれとくくの原上とせり

同 白雪の秋田のしれ流りよれとくくの原上とせり

同 白雪の秋田のしれ流りよれとくくの原上とせり

同 白雪の秋田のしれ流りよれとくくの原上とせり

同 白雪の秋田のしれ流りよれとくくの原上とせり

同 白雪の秋田のしれ流りよれとくくの原上とせり

同 白雪の秋田のしれ流りよれとくくの原上とせり

同 白雪の秋田のしれ流りよれとくくの原上とせり

小鵜田

官川

攝津

類字

同 小鵜田 官川 攝津 類字

同 小鵜田 官川 攝津 類字

同 小鵜田 官川 攝津 類字

續古

とくくは板田乃橋たふまふまふとくく人ふ吾妹 人九

万百

をるる乃宮れ古道いる人絶し一後、着れうき橋 土御門

同

夜ふりし妹さるる為川さるれ板田の橋さるる少御 基後

夫本

川由井らて喜び小まらとくくの板田に後と棚橋 仲実

夫本

君さるる乃小部はれはくともさるる乃移人橋は水也 経正

万才

榊花今感りり那の海とて海さるる乃さるる乃さるる 家持

忠照宮

撰津

若未

五月多あふ乃河津水さるる乃さるる乃さるる乃さるる 後法性寺

心治百

志あふ乃井白乃海は那とあふ乃小部さるる乃さるる乃さるる 隆房

千五百

音無山 伊勢力 藤塩

音無山

伊勢力

藤塩

と

名寄

音無れ山時多、流りりさるる乃さるる乃さるる乃さるる 顯昭

六帖三

松や河のぬれや昔の風さぬいつさるる乃さるる乃さるる乃さるる 長明

家集

音無れ山さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる 信明

夫本

とくく乃山さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる 花院

同

音無れ山さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる 相模

忠穂井

同

類字

風雅

乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる 家行

同

乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる 延誠

夫本

乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる 仲房

神道

乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる乃さるる 兼郡

鳴呼浦 溪

伊勢 八雲所抄

名寄 一の浦 船乗きくんし女らり玉を流しに流るらん人丸

名寄 二の浦 日新よりひきく流れひくくときくま川を吹 伊平

名寄 三の浦 日新よりひきく流れひくくときくま川を吹 伊平

名寄 四の浦 日新よりひきく流れひくくときくま川を吹 伊平

名寄 五の浦 日新よりひきく流れひくくときくま川を吹 伊平

名寄 六の浦 日新よりひきく流れひくくときくま川を吹 伊平

名寄 七の浦 日新よりひきく流れひくくときくま川を吹 伊平

名寄 八の浦 日新よりひきく流れひくくときくま川を吹 伊平

音聞山

尾長 藤海

史本 ともきれ山の麓や道くんはる乃村よあひくはれは 祐奉

同 勢りり音聞山の附島まうさゆき物ひり存り 上徳

家集 小鹿原 駿河 藤海

新六 勢りり音聞山の附島まうさゆき物ひり存り 上徳

同 勢りり音聞山の附島まうさゆき物ひり存り 上徳

同 勢りり音聞山の附島まうさゆき物ひり存り 上徳

同 勢りり音聞山の附島まうさゆき物ひり存り 上徳

同 勢りり音聞山の附島まうさゆき物ひり存り 上徳

同 勢りり音聞山の附島まうさゆき物ひり存り 上徳

同 勢りり音聞山の附島まうさゆき物ひり存り 上徳

史本 霧少くもゆき下道分越て思つてはるは山成 定園
同 夕日ゆきをくたれとさし書さるる思の里六山陰はて 為相
同 白妙乃故もとけりさみみ下思の里は陰る卯辰 隆教
直養 入日さぬ思の里とさし推く書れ夕のあふ思の七にた 頓阿

小笠原

甲斐

類字

拾石 小笠原もくろくはさる下原もくろく申れ思の霧少くもゆき
同 小笠原もくろくの山物ゆきれ約もくろく小笠原もくろく思の里
家集 都さるるゆきけりし小笠原もくろく思の里乃約あそ思の 貫之
史本 小笠原もくろく思の里乃約あそ思の 俊成
同 小笠原もくろく思の里乃約あそ思の 後人
史本 小笠原もくろく思の里乃約あそ思の 不知

小崎

武藏

八雲御抄

五九 前をれを思の里の治は鴨うく思の里を思の里乃に
同 治は思の里の治は鴨うく思の里を思の里乃に
千首 山鳥れを思の里の治は鴨うく思の里を思の里乃に
史本 山鳥れを思の里の治は鴨うく思の里を思の里乃に
史本 山鳥れを思の里の治は鴨うく思の里を思の里乃に
史本 山鳥れを思の里の治は鴨うく思の里を思の里乃に

小山田

同

史本三箇用

史本 小山田もくろく思の里乃約あそ思の里乃に
史本 小山田もくろく思の里乃約あそ思の里乃に
史本 小山田もくろく思の里乃約あそ思の里乃に
史本 小山田もくろく思の里乃約あそ思の里乃に
史本 小山田もくろく思の里乃約あそ思の里乃に

岡部

同

藤塩

名寄 じく思の里の原れ思の里乃約あそ思の里乃に
史本 じく思の里の原れ思の里乃約あそ思の里乃に
史本 じく思の里の原れ思の里乃約あそ思の里乃に
史本 じく思の里の原れ思の里乃約あそ思の里乃に
史本 じく思の里の原れ思の里乃約あそ思の里乃に

音信山

上総

藤塩

郭乙物... 重保

小筑波

帝津

藤江

万十四

小筑波の... 同

男神

同

万葉云云葉書見たり

万九

男神の... 大伴

小野津牧

同

新字

小野津... 朝光

畠田原

進江

類字

續後

畠田原... 惠慶

音高山

同

新字

家集

音高山... 佐成

小野

同

藤江 山藏 互同名

名寄

小野... 申務

名寄 志乃くこれ七弟と申すも其の孤の懐に小舟の山内 雅臣

小山比叡 山 近江 滋賀郡

新拾 沁多く神代と云ふは響やといふの秋の白雲 成運

拾三 沁多の山とては秋の白雲 慈園

同 我園とては神代と云ふは響の秋の白雲 同

夫本 大ひさしと云ふの山とては秋の白雲 好忠

同 沁多く神代と云ふは響の秋の白雲 通基

小山里 同 藤塩

散木 紅葉とては里の恵の秋の白雲 俊光

尾総橋 義濃 藤塩

名寄 信初よりいりりる英存れとては橋とて若後使 衣笠

姨捨山 信濃 更級郡

家集 志乃くこれ七弟と申すも其の孤の懐に小舟の山内 貫之

山家集 沁多く神代と云ふは響の秋の白雲 西行

同 天雲れりりる山とては秋の白雲 同

拾玉 我んちとては秋の白雲 慈園

同 沁多く神代と云ふは響の秋の白雲 同

同 姨捨の山とては秋の白雲 同

同 年をるる我思ひの秋の白雲 幕下

同 志乃くこれ七弟と申すも其の孤の懐に小舟の山内 同

詠藻

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 後成

同

赤房とて人びて山に舞ふくさあきあけ月影 同

建保

姨捨の山より月の影くもせ世を文級の妹乃を承 行意

月清

秋房とて人びて山に舞ふくさあきあけ月影 同

同

とてそれ山にるりらるれやるれあきあけ月影 同

同

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

愚草

更級ちりりり月影とて人びて山に舞ふくさあきあけ月影 同

同

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

同

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

小野田山

上野

藤原

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

小野田山

上野

藤原

懐中

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

緒絶橋

同

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

あつりりん晴き月影と姨捨山とるい思ひ中人 同

いそしそ人々をいそしそあむれ終のともなる橋の渡り也なり 康元

愚草

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 定家

玉吟

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 家隆

法本

行末のともなる橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 忠定

同

思ひ乃とも東よ志あてひく物れ終の橋の渡り也なり 兵衛

同

山をれともなる橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 中務

雄嶋

浦磯

陸奥

神ろいまとい海の蛟をいそしそ人々をいそしそあむれ終のともなる橋の渡り也なり 定家

酒百

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 佐々

名寄

海風よ雄嶋乃橋花けりて浪のたてもなきてあむれ 仲心

拾玉

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 意用

説書

神ろいまとい海の蛟をいそしそ人々をいそしそあむれ終のともなる橋の渡り也なり 佐成

愚草

誰とやいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 定家

玉吟

海馬よ雄嶋乃橋花けりて浪のたてもなきてあむれ 定家

建保百

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 定家

同

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 忠定

同

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 康元

法本

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 猷因

同

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 忠兼

同

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 行蔵

同

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 季廣

同

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 家長

同

あつたをいそし終の橋の渡り也なり又今更れ曲り也なり 後翁

法本

夏をすまじくし海を渡りて松浦に到りては

後考羽

小黒崎

陸奥

家集

とくろ海ありてはとくろ多れとくろし多し海ありては

後規

新六

小黒崎の川のうへに舟ありては

家隆

夫舟

船ありてはとくろ多し海ありては

行家

同

小黒崎三川の流ありては

舟内侍

同

小黒崎の川の流ありては

徳人

同

小黒崎の川の流ありては

後規

同

とくろ海ありてはとくろ多し海ありては

光俊

折関

池

同

藤塩

夫舟

雲海ありてはとくろ多し海ありては

仲正

同

折関の川の流ありては

徳人

同

思ひもくし海ありては

同

小塩浦

加賀

藤塩

良玉

加賀下りてはとくろ多し海ありては

隆頼

同

思ひもくし海ありては

同

雄神河

越中

仙覚抄

万七

をくし海ありてはとくろ多し海ありては

家持

名寄

とくろ海ありてはとくろ多し海ありては

後規

散本

雄神河ありてはとくろ多し海ありては

同

とみ川やまの人のまゝ鮎ゆりて河をくもあそこの四六の佐頼

平布崎

浦

越中

仙覺抄

なほつ湾花らりしうい法よ六河鴨ささけられるゝ 家持

とぬの湾漕多りかりの糸ひよみをもあてき浦より 同

とふれれ我思ひのしよの浦の有磯れめりそれとあり 福丸

平布の浦小波多かりしは並れあ浪さそて浪さそて 空若

隠岐小嶋

隠岐

後いふりまゝと山も移わしとまはれぬのひささるゝ 経家

浪らるゝとされ小島の浪底之しかりぬをそそ 保孝

根さるゝとまのこ嶋の波の上の浦風さそよ思ひしれ色 保孝

月清 月清 月清 月清 月清 月清 月清 月清 月清 月清

思草 思草 思草 思草 思草 思草 思草 思草 思草 思草

夫木 夫木 夫木 夫木 夫木 夫木 夫木 夫木 夫木 夫木

隠岐海

同

我こそハ新崎者よ隠岐の海れあつた浪凡くしとて 後守羽

とまの海といひとりやさあつとあつとあつとあつとあつと 同

隠岐里

同

野今じり馬の浪の色長は地思ふ小島のときれ里よ 後守羽

浪りしとまの浪よ今海れ我うととと絶わねをひし 後守羽

浪りしとまの浪よ今海れ我うととと絶わねをひし 後守羽

小田渡

里

備中

和名三小田郡

名寄

有明乃月よ夜あてせられしとみ深りよ存て鳴るる

赤言

同

雄琴里

同

類字

金葉

妻乃乃と下れ里よあふは流きゆせれが六つあり

しち又と下れ里よあふは流きゆせれが六つあり

妻本

同

姨嶺

紀伊

摩塩

とらるる嶺と下れ里よあふは流きゆせれが六つあり

妻本

月と下れ里よあふは流きゆせれが六つあり

山家集

とらるる嶺と下れ里よあふは流きゆせれが六つあり

西行

緒捨山

同

名寄

年時よりとせられ山の核乃葉も久しくさるる

人丸

愚草

新やよと下れ里よあふは流きゆせれが六つあり

九条

玉吟

核乃葉れ流きゆせれが六つあり

定家

新六

夕涼と我神くは疑小船と下れ里よあふは流きゆせれが六つあり

家隆

丈木

みさひの如き下れ里よあふは流きゆせれが六つあり

為家

同

風と下れ里よあふは流きゆせれが六つあり

鎌倉

同

白玉れ緒捨の山れ核の葉はあふは流きゆせれが六つあり

人丸

同

白玉れ緒捨の山れ核の葉はあふは流きゆせれが六つあり

人丸

同

白玉れ緒捨の山れ核の葉はあふは流きゆせれが六つあり

人丸

小江浦

同

摩塩

正治百

さ乃あやといの浦と下れ里よあふは流きゆせれが六つあり

経家

音無滝

川里

純伊

親字

六帖

君うよと人重ぬる化のまれ音無川乃きふいよせぬ

夕芳表

船夕乃ぬれ神とあつたれ山にぬぬ海や音もすれ流

名寄

熊野乃音無川は流さるやうにたれ持世ひくた

同

音無川里乃海凡夜と音も悲ひよとや衣さゆらん

夫本

とあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれ

同

音無の流れ白きとあつたれとあつたれとあつたれ

同

との山の上より流る海の音無川の音無の流るやうに

同

いふやとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれ

同

とあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれ

同

水これみゆとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれ

明玉

磁取置嶋山

淡路

右寄三ツリ

名寄

海石流るれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれ

とあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれ

織面漆

篠前

藤垣

夫本

あつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれ

同

とあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれ

小沼田

末劫

五十三

水沼田れはゆらゆら水を流るくえんかむひよす

くそんかむひよすくそんかむひよすくそんかむひよす

小嶋神

同

五七

あつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれ

名寄 豊野

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

経衛

名寄 小山田池

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

尾崎隈

同味

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

六條

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

別雷神

山城

藤原上賀茂

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

室保

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

法衣

名寄 忘水

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

大和

数字持津有同名

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

法師

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

兼昌

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

俊光

名寄 同

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

中務

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

奴忠

おもしろくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

為尹

和匠香山萬三 大和藤塩

白妙は舎人ヨソロを養来てまのうらひのりゆりゆり
久々花あもあられおきこひゆりひむつらさきも
せんさくもか

大伴
家持

同 歌大夫志とまんと思ふのうらひはさきりゆりゆり

忘水詞花 櫻津兼昌

任音の浅水小野乃系あまえくまそわすけは
いぬさか浅水小野乃系あまえくまそわすけは

龍綱
経国

夫本 妻乃乃名浅水とれくまあまえくまそわすけは乃妻
隆房

輪田浄崎名寄 同新字

あつえまてのりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
塩川乃乃あれねくまあまえくまそわすけは乃妻

寛性

車舟とよ乃名浅水とれくまあまえくまそわすけは乃妻
あつえまてのりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

俊光

山家集 清のさき乃乃あれねくまあまえくまそわすけは乃妻
お田乃奈浄崎清き小物舟れくまあまえくまそわすけは乃妻

西行

同 照月乃乃あつえまてのりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
漆河乃乃あつえまてのりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

新成
観意

同 燈風の吹らふ嶺乃乃あつえまてのりゆりゆりゆりゆり
乃妻

乃妻

百 渡邊

攝津

五月五日般つれとてその大いなる名はつる勢也

隆源

後を大にれ岸よ水城てそれのさるに舟つる也

良選

よめおちふいの名は常りして重升よむる伴約也

良選 法師

渡會 川郡

伴勢

類字

よきしひのけされおはれは川よのさる海より天をよ

久九

後今れ大河野のよきとあきとれはさるに妹を人し

同

よけ二更の浦は信候のよきとあきとれはさるに

躬恒

あつとせ乃あめしひりん流麻河城ていれは後法也

家隆

流出してみつとあきとれはさるに宮川たりやまていれ

西行

君よくしとるりし川さるて思ふにれあきとれはさる

捕親

幾代をあきとれはさるにの勢れにさる名也

後法

若松原

伴勢

類字 伴勢 互同名

妹よこいあのか原と後と後下乃写よあつとる

聖武

伴勢鳴り乃あきとれはさるに夕流うけて秋風をく

光明 奉寺

伴勢鳴やとふれつるあつとるにあきとれはさるに

後鳥羽

あつとれにれ松原埋きて流下れ田流乃巻てをさる

雅永

志井

同

類字

天仁元年赤宮群約の時志井と云ふに

甲斐

つるはれあきとれはさるに結ひらん志井乃水

甲斐

流しに月とさるもり思枕よひてなと志井れ水

忠定

若磯

遠江

右寄ニアリ

約のよ浪若乃橋の浦凡よ音信うらみあつきの春 長明

忘河

甲斐

夫本ニ當国

忘河まゝをよのまぬ海車れられよのまがふゆふ 忠岑

うさくろをよのまぬ川何とそ移れ忘河うら 忠隆

和平可鶏山

相模

八雲山抄并仙受抄當国

長ろよれまをよのまぬ河のまれまをよのまぬ河 忠隆

我立拙

近江

教字

君代よよ立拙よ約きて松原相原をよのまぬ河 公迷

音のり我立の所れ立拙も海まぬ冥かど移れる所ん 同

あつとをいれよまぬ河の世も我立拙よ海まぬ河 同

いとまぬ我立拙とまぬ河を求る道のまぬ河 同

舞のまぬ我立拙の杉村ふく海凡の君とまぬ河 同

風をよ君とまぬ河を移れ我立拙の根れまぬ河 同

流少くも我立拙よ枚少りて海まぬ河 同

山まぬ我立拙よまぬ河を臨みれまぬ河 同

いふまぬ我立拙の郭云むく移れまぬ河 同

かたれおのりみのりの洞よ海まぬ河を移れまぬ河 同

うらまぬ我立拙よらまぬ河を移れまぬ河 同

あのみまぬ河とまぬ河を移れまぬ河 同

^{支那} 皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を
^{草巻} 山人の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

若松森

近江

類字

場後百

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

十載

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

支那

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

量部浦

同

若寄ニアリ

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

乾鳥山

同

拾玉

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

皇の衣を大津の浦つゝい我立松より人地を 類阿

後森

和射見我原 義濃

百二

和射見我原 義濃

同十

和射見我原 義濃

同十一

和射見我原 義濃

堀百

和射見我原 義濃

和射見我原 義濃

又載之但口可

不忘山

淡

淡奥

藤

六帖

淡奥乃わを海川乃

我撰
法師

家集

淡奥乃わを海川乃

別嶋

出羽

藤

名寄

別嶋

渡乃山

石見

藤

百二

大船の渡りれ

名寄

あつ孫らん目と夕

夫本

いとゆきさ言れ浪

渡嶋

播磨

藤

藤

渡嶋

若乃浦や波りくさるる浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦とわめ葉うり眺ま六指さうひる真の湯身寂蓮

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

忘水 未勅

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

我身浦 同

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

若乃浦の入り橋の浦津家これなりまきまき地依成

在

いふらんきりふの浦は川の真ん中死せよと申す地

和回山

未勅

門院

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

あつたる尾止ははらばらとてあつたるを

松葉右所和歌集第四

賀茂河

山城

愛宕郡

かき川乃流津志津きねもあつたる妹小の家よりあつたる

かき川乃流津志津きねもあつたる妹小の家よりあつたる

かき川乃流津志津きねもあつたる妹小の家よりあつたる

かき川乃流津志津きねもあつたる妹小の家よりあつたる

かき川乃流津志津きねもあつたる妹小の家よりあつたる

かき川乃流津志津きねもあつたる妹小の家よりあつたる

かき川乃流津志津きねもあつたる妹小の家よりあつたる

かき川乃流津志津きねもあつたる妹小の家よりあつたる

かき川乃流津志津きねもあつたる妹小の家よりあつたる

かき川乃流津志津きねもあつたる妹小の家よりあつたる

かき川乃流津志津きねもあつたる妹小の家よりあつたる

かき川乃流津志津きねもあつたる妹小の家よりあつたる

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

家集

中務

有家

家集

同

あやゆりかおれと河津の葵子ひらりて海つ今雨 寂蓮

拾

雲舟のりゆつのはな葵あはくもせりつお舟の川波 女房

同

葵草かきりておのりてお花れ河津をさうりゆり 慈法

同

海さてりゆれあはれ。葵あはくひして思ふ毎れ英茂 同

同

とく葵あはれ河津のお風はなれりたれて路もさゆ 同

同

年とく葵あはれとゆれあはくひしてお花れあはく 同

新

年ゆてあはれあはく川ゆあはくは嬉しあはく桂さ 同

同

か花河の流津あはくひとさして鮎少と淵と神名とゆ 為家

同

あはれあはく河津と川あはくあはくあはくあはく 信実

月清

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 後家

愚草

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 定家

夫木

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 定家

夫木

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 定家

賀茂山

同

名寄

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 定家

月清

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 後家

神山

同

賀茂山

万十二

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 雲石

堀川

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 云実

同

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 仲実

同

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 隆源

拾

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 常陸

拾

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 慈鎮

同

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 同

同

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく 同

詠藻

玉吟

同

新六

史本

同

同

同

同

同

身小を寄りしるるに花梅花雪落ぬれどあつさゆり 後成

ちも抑りしれ神山のゆたきとさうけておろけはるるを 家隆

立ゆりし神の梅は春よりわや若しあひらん 同

あふいらぬれ神の梅はあふいらぬれはるるを 信実

當りきかきぬと神山まき茂はるるを 後成

神の梅はあふいらぬれはるるを 行玄

そのあふいらぬれ神の梅はあふいらぬれはるるを 和泉式了

神の梅はあふいらぬれはるるを 寺入道

神の梅はあふいらぬれはるるを 後成

行同

森

山城

拾玉

類聚

草房

新六

同

史本

同

同

史本

同

あつさゆりしるるに花梅花雪落ぬれどあつさゆり 西行

ちも抑りしれ神山のゆたきとさうけておろけはるるを 总法

立ゆりし神の梅は春よりわや若しあひらん 三條公左大臣

あふいらぬれ神の梅はあふいらぬれはるるを 頼阿

當りきかきぬと神山まき茂はるるを 衣笠

神の梅はあふいらぬれはるるを 知家

そのあふいらぬれ神の梅はあふいらぬれはるるを 祐奉

神の梅はあふいらぬれはるるを 忠定

神の梅はあふいらぬれはるるを 同

神の梅はあふいらぬれはるるを 小宰相

史小

龜山乃忠根のねふまじき鶴の思うるふ人たぬ也り

周防内伝

同

思ふ代ち龜乃尾山よまじ鶴の毛衣さや毎と守録

同

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

同

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

為家

鴨羽河

同

都字

いふり之しるらん思ふ山れりこれねふ海しりたま

前を改大

霞谷

山城

類家 陰奥有同名

古今 為あつこき霞乃言よ新く照見言きふも河ぬ
玉吟 思ひおぼ言れ下しを思引れ霞の言れ言乃夕くま
夫木 ちよほき霞の言ふくつり言れをわびり言じ

文屋 康秀 家隆 鎌倉 右大臣

桂

河渡里山

同

古今 月乃まむ河のそちちり里形まむ桂のけけをう後
家集 ちけり川月れ光ふあゆり秋れ秋少く成よけり元
六百番 河をりちやあ橋舟ふい漸少のちや節にはん心
愚 桂川照月影乃言る夜は藻は任中そ底よみけり師時
古今 月乃まむ河のそちちり里形まむ桂のけけをう後

類聚 月乃約引そむやもん言やつれ海り秋後
夫木 青柳れろく乃里の涼緑をれあらひま風そ吹
同 桂川河うむ柳波うけて梅津をんや春めさなり
同 ちよほき霞の言ふくつり言れをわびり言じ
同 桂河七瀬乃渡れうむい舟りもんそはあひよん
同 月と見て光柳のちや影じん桂乃里よ初生れあ
同 照月乃あつれ里の郭云河そつり言れをわびり言じ
同 ちよほき霞の言ふくつり言れをわびり言じ
同 いさあはつる世をるん又方乃桂れ里の月れあ
十首 言れあそつり言れをわびり言じ

元良 安法 信受 行家 家房 為家 同 同

桂宮

同

古今 月乃まむ河のそちちり里形まむ桂のけけをう後
家集 ちけり川月れ光ふあゆり秋れ秋少く成よけり元
六百番 河をりちやあ橋舟ふい漸少のちや節にはん心
愚 桂川照月影乃言る夜は藻は任中そ底よみけり師時
古今 月乃まむ河のそちちり里形まむ桂のけけをう後

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

煉あちて少小なる原風きりやせうな衣う勢山
於出て河ささぬくれば川まをひき流しよ新を山
河ささぬらわぬ時多かや山しりや鳴くさう後人
春さく色川風きりみれ原さや鹿鹿衣うせ山
後鳥 俊忠 雅経 長親

可尔波多井 山城 名寄奇枕ニ當国
今婦

浦さくおと忍一海抱きたらんきそか小のぬあよ芥と摘
後鳥

紙屋河 同 葛野郡小野川西川也

不つとてとわらるる思ふ紙屋河せれあものこれ志
古今切名
いふれりつる思ふやせう後人鏡のけよ少わら白言
後鳥

神楽岡 同 類字 吉田山中少方ニアリ

少しとてくるしうふにそ中ゆらう神木の思れ鏡虫凡色 范光
名寄
思ふ代とわらう新らうる思れも子年れもやそ鏡
衣笠
神木思吹浦ふ凡のほてとふ少らとさきしゆり鈴虫凡色
吉田野乃と絲あもまら河ねは浦めくさうかろ思
後人 不知
千首
福ちつと吉田此宮のうら岡そ松凡の勢志けり山
為尹

鏡山 同 藤垣

八隅ちりわら大君れくこみやぬさうはる一山科乃
鏡乃山不夜はりこれ盡ひはもひの盡すもれと
ち死つらうとて百あ乃大官人ち替ささうれち替
額田王

葛野里

山城

史本三苗国

夫木

旅人の持てくもをせむるにけりかきりし里の初

新

春日

山野 嶺里

大和

万三

ちるやあまの神さうりせはまの里の粟海りはと

娘子

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

依伯 赤磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

赤磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の粟海りせはまの里の粟海りはと社に

磨 磨

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

春日野の浅茅を原ふとこれの時うはは家より

百

本集卷四

消砂の雪間をふりて春日をふけめとあはれぬあまを掃 永縁

春きてふゆの七日小春日けりわふかすくそそ三系あすの 肥後

春日山にありき氏に宿るれはもてうき花咲けり 顯仲

春毎にきふ彩のあけ春日山に松はまもはゆきあり 同

はらけぬの初申るれや春日山に松はまもはゆきあり 俊頼

ゆつゝあけゆくは花れし女もあけと絶く春日山にうか 愚房

春日山にありき氏に宿るれはもてうき花咲けり 西行

春日山にありき氏に宿るれはもてうき花咲けり 意鎮

春日山にありき氏に宿るれはもてうき花咲けり 後成

春日山にありき氏に宿るれはもてうき花咲けり 同

春日山にありき氏に宿るれはもてうき花咲けり 同

春日山にありき氏に宿るれはもてうき花咲けり 同

葛城山 大和

春柳うらうら死しよと立やれきてとのそも妹とて思 人死

うらうら死しよと立やれきてとのそも妹とて思 同

葛城や波をくめちり継橋の心をあけいさゆきん 後人

未はゆきやくめの継橋つとくは海もてうらうら 清心

葛城や波をくめちり継橋の心をあけいさゆきん 同

妹あてはる日やあけ葛城の形はちかてちかぬとて 小倉

あはゆる君うらきれ神よりも終るる我を海もてうら 中勢

ゆきんくはる日やあけ葛城の形はちかてちかぬとて 同

ゆきんくはる日やあけ葛城の形はちかてちかぬとて 同

ゆきんくはる日やあけ葛城の形はちかてちかぬとて 同

ゆきんくはる日やあけ葛城の形はちかてちかぬとて 同

ゆきんくはる日やあけ葛城の形はちかてちかぬとて 同

ゆきんくはる日やあけ葛城の形はちかてちかぬとて 同

拾五

去と捨て行雲はれさうらひ移されそや前りめをん 慈鎮

同

山持さう行雲はれさうらひ移されそや前りめをん 同

同

離るるく雲はれさうらひ移されそや前りめをん 同

同

横心行雲はれさうらひ移されそや前りめをん 長明

同

乃乃行雲はれさうらひ移されそや前りめをん 定花

同

宵一じろ行雲はれさうらひ移されそや前りめをん 慈鎮

柏木森

大和 類字

六帖

新六

柏木乃森はれさうらひ移されそや前りめをん 人死

新六

言われそ葉もれ神やゆららん白ゆららん柏木乃森 家澄

新六

三笠山はれさうらひ移されそや前りめをん 知家

夫正

春さうらひ移されさうらひ移されそや前りめをん 云朝

雨集

松風はれさうらひ移されそや前りめをん 後冬羽

十首

松持奈るまをゆへあ柏木乃森の指を寄るはれさ 為舟

新六

未ゆゆらあうれまの音より他を初てくう人乃代 衣笠

軒嶋豊明宮

同 八雲山抄三當国

神色山

同 八雲山抄并藻江三當国

よりあつての山よたら白ひみみはれさうらひ移されそや前りめをん 人死

迦留 市社池の池 大和 類字

天荒やわらわらとわらわらも子う里あしゆまの跡もるよ
人丸
うまれりしに家立やまのまをたう跡の山よりくまの同

かゆの池の入にめくわら鴨さくも玉藻れよの独孫あくに
紀皇女

天荒やうれ社乃いといつと世世まをゆたなりりま
人丸

大和路やかゆれり女よ事ゆんまをゆたさといくゆた
季経

鴨のさゆ羽をまをさくかの池の上のれ見人かまき後人
尊海

月さゆらぬまはらあう氷わてまのうたさうの池水
季系

恒の池の入といくゆ鴨よりれよ毛さうといくまう初
野田

夕雲ふよとい量れさうく月よまをやゆゆのりけあ
為平

神垣山 同 類字

千早振神さういれ林さう河あまをさうらうさう
類人 不知

らるゆ神垣山と越あましちん人といくゆまりあ
家隆

ちるゆ神垣山と越人見ゆ思よといくゆさり思さ
同

蜻蛉小野 同 類字

新後 秋まゆと雲よこめてうけろれ小舟のあま下はゆ
為家

新拾 雲くま留夕日の中いんちあゆあまのあさりよ凡う涼
賞登

夫木 蜻蛉乃小野れさういんちと塩れ漆やうつこまれ夕ちきこ
光俊

同 色さうら黒もはらまあ鳥のひらりあれ小舟のまのめ
知家

新葉 なるれと思ひよりえて蜻蛉小舟のあさち小荒堂
好光ら 内大屋

草房 ともさくくまをいんちりけりあれよの柱はれ秋乃初風
頼阿

笠山

大和

藤塩

万三
あられいさんと思ふ笠山今もはるかぬれは

石上
し丸

借香山

同

八雲抄

万三
鷹合の野さくさく海さくさく切りはれお葉を

秋小野

岡

同

執字

万三
三言中れくらり思ぬるもの思ひされてあつり

夫木

同
ふさひさき彩の雲の女ら花心うめぬかあはは

同

同
あはれあはれ小野の女郎もさくさく海さくさく

唐人池

同

藤塩

新六
切らゆらあつりれ宮の昔より池を初てゆくの池

檀原

宮

同

万十一長河
玉なをたう孫ひのれり原のひつりれ代はあれ

同
あつりれれあつりれ原の宮はまねわく死そく夫のト

現六

あつりれれあつりれ原の宮はまねわく死そく夫のト

夫木

あつりれれあつりれ原の宮はまねわく死そく夫のト

云朝

垣津田沈

大和

かみとひのひろくそくそく丸も月の時魚丸あれは房冷
いまるささきり北津南海らさし北三田をれうき
はさの池の堤れりさく吹三寸の柳枝よ好枝
らと煉のりみら系海さけりら 下略

交野

原里活

河内

穀字

雑子あうみ原のそくをいふは丸宿り也 経家

くも又交野れものよみそれうくもとさき 同

山持さう交野の母丸鈴中こひさかびあり 国信

みうりまと橋うう葉とあきまきま交野丸 師棟

月影らと交野の山持まき交野丸 師時

ともゆらあられの霧とともまき 永縁

山持人らうかり鈴の言と交野丸 紀信

みうりまら交野れものよみそれうくも 仲実

あふまのる交野の雑子妻あま 常陸

ともまらあ入りの霧もまきま 定家

ゆかりれものほいじく 頼徳院

物人らとあまのき打拂い 定家

山持さうと山持さう 知家

くはりね 康光

山持さう 秋阿

思ひあを神う 慈法

春うもつ契あ人も橋交野のなれ花乃夕暮

慈鎮

高とくはくもみれ物おしあははとやわ娘子ゆ也

家隆

物ゆけい交野乃霧さくぬまれ玉の詠さく次雄子ゆ

同

橋より交野れ娘子書さくし心ちうらう花れ下暮

同

いそさつる目かみれ物言ゆし交野れ玉の詠さくその曙

定家

みも物人よえせらも山狩すり交野乃原の書のみなれ

俊成

三あや交野れ物持り書てゆらみかせれ山の湯の月

家長

ちり小書あゆも持らん交野原枯野の下も雄子ゆ

俊成

物衣るも物持のさりわさくさる原も書れゆさあ

定家

交野ちり物より娘子れゆさくさる原も書れゆさあ

匡衡

ちり物よさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

如願

わけぬもさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

能目

思ふもも表ぬさくさくさくさくさくさくさくさくさく

法多

病さくももさくさくさくさくさくさくさくさくさく

高

竹足羽河

河内

藤遠

五九長哥

志あさるもも海さく海れさ糸ありれ大橋のよふ紅乃

同

赤雲殺すしひさしあありさくさくさくさくさくさく

同

ひららさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

同

獨あももももももももももももももももももももも

云名

志あさるもも書川乃大橋と海りてそれの音ゆりり也

光俊

右竹足羽川とあやまりて竹足川と書ゆりり也

志あさるももさくさくさくさくさくさくさくさくさく

同

志あさるももさくさくさくさくさくさくさくさくさく

同

野宮百

河田森 原

河内 成道

原ノ青黒石落居同哲載之

夫本 久方乃杜よりいふはひりては河田社にあり兼仲
志原れめつめはれ原ノ攝せりもあつて神あり 佐成

亀井

横津

敷字

山家集 浅くぬ契乃経うく酒きあつてお井れ水ノ新うり 西行

拾玉 古乃はらの布に八月れあつては龜井ありては 善法

同 ねれそはるの林とては乃れ原の心龜井はえさる 同

同 乃とては落る布とては乃り龜井とては乃り 同

同 末乃は龜井とては乃り龜井とては乃り 同

愚草 徳人れじよは契とては乃り龜井とては乃り 同

夫本 乃れは乃り乃り龜井とては乃り龜井とては乃り 同

神南備森

同

山崎ノ南アリ今俗ニ 神南ヲカウチヒトナリ

山崎より神ありの柱と送りふくとゆりて海

百今 乃りそは別ありみじりり 同

人乃れは乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り 同

宇治南白首馬の湯乃ら乃り乃り乃り乃り乃り 同

惜秋亭 懐ゆるなり 同

新勅 神あり乃杜れあり小宿乃れ乃り乃り乃り乃り 同

同 下葉乃て乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り 同

名寄 立田乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り 同

乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り 同

神清

同

藤塩

藤原

松葉巻四

のしつ乃あり磯と凡そ使波らあひつり新ん

河嶋

攝津 類字

六帖

曉乃着よまへて河嶋れ磯と凡そ使波らあひつり

藤原

名寄

湊へに真津塩風と凡そ使波らあひつり

藤原

現六

と好つる松よりと河嶋乃あり包み成るれね

頓阿

名寄

と好つる松よりと河嶋乃あり包み成るれね

藤原

新集

海に東乃支と凡そ使波らあひつり

藤原

夫本

流よ松よりと河嶋乃あり包み成るれね

妙光寺 内大臣

河嶋乃あり包み成るれね

知宗

河鹿

攝津

名寄三當國

河鹿

詞花

家集

思ひ出と凡そ使波らあひつり

大江 五言

敬本連歌

海のこほると凡そ使波らあひつり

俊頼

川 鹿小舟乃ありと凡そ使波らあひつり

俊光

一 河のなると凡そ使波らあひつり

俊重

柏野

伊賀

名寄三當國

あつと凡そ使波らあひつり

風森

同

或末勅 夫本三當國

らちか風乃枯る梅花ゆと凡そ使波らあひつり

按察

神道山

伊勢

類字

名寄

同

拾玉

同

同

同

同

同

同

同

愚草

神らしんあはるは花感ふいささうりう終るん

いす河りれ水上とあめさる神らしんあはるれあはるん

神らしんあはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

うけあはるもかけてそむむかたは神らしんあはるの行末は

あめ代とてさけうあめ代とてさけ神道とてさけの好む世れ風ふ

神らしんあはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

あめ代とてさけうあめ代とてさけ神道とてさけの好む世れ風ふ

神らしんあはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

あめ代とてさけうあめ代とてさけ神道とてさけの好む世れ風ふ

神らしんあはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

あめ代とてさけうあめ代とてさけ神道とてさけの好む世れ風ふ

神らしんあはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

神道とてさけうあめ代とてさけ神道とてさけの好む世れ風ふ

神らしんあはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

あめ代とてさけうあめ代とてさけ神道とてさけの好む世れ風ふ

神らしんあはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

あめ代とてさけうあめ代とてさけ神道とてさけの好む世れ風ふ

神らしんあはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

あめ代とてさけうあめ代とてさけ神道とてさけの好む世れ風ふ

神らしんあはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

あめ代とてさけうあめ代とてさけ神道とてさけの好む世れ風ふ

神らしんあはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

あめ代とてさけうあめ代とてさけ神道とてさけの好む世れ風ふ

神らしんあはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

あめ代とてさけうあめ代とてさけ神道とてさけの好む世れ風ふ

神らしんあはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

あめ代とてさけうあめ代とてさけ神道とてさけの好む世れ風ふ

鳥崎

伊勢

山家集

あはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

風宮

同

名寄三當国

あはるの志根の宮指契うあめ代とてさけ

名寄

これ春の花と物... 西行

鏡宮

伊勢

数字

神代より光と... 隆奇

甲斐河

同

名寄ニアリ

名寄

いせ人かみ... 長明

河口

同

類字

名寄

河は... 大伴家持

川は... 同

名寄

川は... 同

名寄

川は... 同

川は... 同

神崎山

同

名寄哥枕ニ當国

妹と... 長明

隠乃山

野世池

同

仙覚抄ニ當国

名寄

家... 當麻真人

名寄

み... 行家

同

君... 先後

同

我妹... 仲正

夫

浮葉乃... 後九茶

夫

始... 歌

夫本
かろくはこれの小野の女良花露乃とみと何は通せん
清浦

夫本
泻浦

仔勢

春雨抄ニ當国

新日さへは浦丸をりてあきふ出くは海に約す
後流

六百
萱津原

尾張

藤塩

東海やわ津の原れお露よ木さわつらん神六物うた
有家

冬枯乃おれ名河をきふり初ふ人の書やとをん
長明

藤塩
懸河里

遠江

藤塩

これらに里のさうひと川に首てふ布とふ川の里

風早浦

駿河

藤塩

わらあは妹をきくと風子に浦の沖へ尋さうひく
吾若

新六
風子の三浦の浦は台はこれをもさひ吾人思へん
河名
實人

新六
絶ひのそきか焼く風早女ふの浦は烟の地
信実

小波子島はやをせん風名の浦は沖に立居たり
為家

家集
甲斐根

山

甲斐

かひの海川は年毎る君なよあはらけとぬぬつ也
貫之

海百
かひの絶れ山をこれ世由鶴乃奈とて海へうけけり
同

岩岸
去處立海りつつかひのこれをもみぬおのりて死す
師時

同
月清
かひの白根と絶れまはらけとて海へうけけり
後惠

月清
雪清か甲斐根と絶れとるみりて春の曙
同

愚草
かひのさうひのさうは流枕よさうとさうひの
後系極

愚草
思ふとさうを何れか糸よさうりあせり山と馬
定家

をくちてこも雪のつらねは甲斐の根のふくひぬか

甲斐の根のふくひぬか 頃徳院

春のつらねとふれぬひの糸のねとくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

雪のふくひぬか 後羽

雲のふくひぬか 西平

雲のふくひぬか 西平

鎌倉山

里

相摸

教字

花のふくひぬか 雲名

鎌倉山 雲名

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

霞関

崎

武蔵

教字

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

かひひの雪はくはくはくはくはくはくはくはくはくは

類聚

松葉巻四

家集

拾玉

同

名壽

文壽

同

草庵集

雲集

同

同

懷中

ひつろの處乃詩と思ふか遊花なりて立所く詩人 九

やとらて越けりまの便とや家乃字の名も立人 定家

呼子鳥居乃閉る色とちりる詩人と立し海れ出る 慈法

東よはる氣と雲の名ふとて春の所乃と今よき世は 同

常ぬともまふ名抄と思ふも同し所乃名とて心 顯民

立し所乃處の園乃ゆきのに花をいつく白ひそふ人 龜山院

心あていそれとろみろ梅花雲乃園の春れ夕々終 光経

東海やまれ越え所相取乃山名處れ雲と社とれ 頌阿

春と海く行所い流くまの糸たやの雲の字やと世は

多うてのたまふとありと来てこれ舞れ下葉とね葉は

蝦牛山 藤塩

氏花 藤塩

笠鴻

同

仙覺抄三當国

万土

弟の流乃河の井の流れを流とみろく思ふ山流滅後人 吾右

妹の巻れありの乃詩の笠鴻より出る月名流後人 為家

限山 上徳 藤塩

海にあはるる事しめし母中し今かきりれ山と人 吾右

取明人漢

同

八雲抄

大木

ありしれあふまじやとてあふといふるまれ漢子人 孫人

香取浦 海 下総 近江有同名又右寄三當国 国より今依類字當国入 不知

大舟乃かいられ海いふるも出らぬ人か物思はれ人 人九

振衣い流り花はあちとてふふの浦よまに世 為家

あつらひの七糸うらひ夏衣のとり乃浦に経夜乃月

妙光寺
内大信

葛飾

下総

仙受抄云南国首飾郡

ツキツキ

赤人

家とてふ人あを津をんりつれきりてこれと奥擲こふ

葛飾乃まればいほむむもろとせんひ子つり

葛飾乃まれば井とれいさしし水とほぐんであつと田

うらひあゆりてこれと海とて我いさうまうれてこ家

うらひあゆりてこふありとゆれせりいほとさうら

鳥馬のあゆりてとせとあつとさうのちとさういそや

まのこもはるふそ海もさ音思ひまは乃津津橋

うらひあゆりての井つらりりさうあ思ひれはとこ

葛飾乃りつりい御堂りつりゆり通ふまは九巻橋

葛飾乃りつり海のねれり代はり見初り人のあ

うらひあゆりてのねれりねれりあつとあゆりて

勝間田池

下総

類字

かじ中田の池に我さる蓮さ花さ君さひも形さうこと 婦人

あつとて何れみきん猪あ向の池はせとあつとてあつとて 新恒

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとて 季能

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとて 西行

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとて 同

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとて 同

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとて 同

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとて 同

玉吟 氷もあつて降つてもあつて涼さ指同田の沈 家隆

天本 約さそめめらうういあすこの花の塩はさうれを 為相

同 膳房田乃池は行てふこひくで海もいもいふりて 源信

同 膳房田乃池と縁よふゆかふなれ柳の陰乃うりて 弘仲

同 糸くれ乃きんさうりて膳房田乃池はさういさあつたれ 大貳

五月雨よゆそそ初ん膳房田の池も今う沖はあは 意銘

名寄 栢そゆくのあうりさうりあうれ音乃池と和らあはし 為海

鹿嶋 崎神山宮 帝権 陸奥能登 純作 有同名

同下 敷居乃目ゆの湯と浪さうそそわ持人あうりさ物代 名名

拾玉 ありれあう膳房乃神と和つとさめらとさうに我とさひりて 大寺人

同 ありのそたてあうりい膳房乃いされすてもさうりさの 意銘

同 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

同 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

同 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

愚翁 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

月清 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

家集 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

大木 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

同 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

同 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

同 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

同 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

同 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

同 ありのあうりいさうりい膳房乃いされすてもさうりさの 同

ふらふら言はれぬのらひあて人の妻とも結ばせり 三朔
お舟漕具共とらひ言はれぬの海舟漕具漕具とらひも言はれ 頼政

名并 同 藻塩

月影とみ海と人床漕具の漕具の漕具の漕具 定田

くゆり手り好く指りしとらひ思ひ乱て恋も海と人 衣笠

建保 同 山里 同 新字

情やうわあめの浦も海と人あてみるあてみるあてみる 定衛

ゆきやうとらひも海と人あてみるあてみるあてみる 後山

ゆきやうとらひも海と人あてみるあてみるあてみる 其末

情とあてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 内侍

夕暮れあてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 龍宗

立ゆらあてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 仍家

りゆらあてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 康茂

あてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 知家

春あてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 野村

あてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 式部

あてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 後山

あてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 後山

あてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 定家

あてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 後山

あてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 上西門

あてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 後山

あてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 同

あてみるあてみるあてみるあてみるあてみる 同

夫木 春魚、鹿丸浦のあま人の楳貝をまらひうらん 續人 不知

同 雲霧のひきの浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

必寄 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

同 松葉巻の浦と足後世海をいふをぞとこきてきり 同

夫木 舟の海を出て月夜よのまにけの雲の幸崎の松 信実

舟の海を出て月夜よのまにけの雲の幸崎の松 信実 為家

幸崎乃松れ梢は船のやせも海にとほし三輪の松枝 同

幸崎乃松れ梢は船のやせも海にとほし三輪の松枝 同

鏡山 近江 亂子 野例郡 山城 豊後 有同名

家集 家妹のつらみ乃山れの雲のうらつ海より物うの 家持

くすくすたる鏡の山と哉ゆけまわつ雲のさ妹のあつ 同

名の中は山雲のうらつ雲と鏡山にそそ夏影みえれ 源順

いふくも山にやまきん鏡山形まきとそれあつりの 龜威

鏡山やゆいさうくようちる母れら魚とそれあつり 同

雲あつと鏡の山くりともおほつらうて海よりさうれ 元補

うみ山雲よんやうらうらんいそれあれぬ松枝うけ 経家

さゆくおふはるんを鏡山のり又あんとあつ物う 隆信

約年とつらみ乃山れの月るるのそよ月とそよ 隆信

何れもらも鏡の山れ山凡ふあつる海やまら水うん 行京

鏡山うはるる波るひあつるそら山に初るまのれ月 定家

けり海を都つるそそそん鏡山に初るまのれ花の白雲 定衡

水はよのそそ影るつらみ山にそそそそ言はよきり 忠之

月影のうらつ海も鏡山色を山やうに嶺乃白雲 知家

くみ山雲れあまそそれそそそそそそそそそそ 花宗

鏡山まらうけよ年暮て老えあつるそそそそそそ 行家

そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ 国信

そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ 国信

人形をせぬゆゆのよ喚子るるいと後山とよみし人 師時

春とみろ花形とまきり後山とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

言ふれはるるお前山後山和をらあうら面勢りなり

後山とよみし後山とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

鏡山夜もは月をまきりてあられとあうら浦波 定家

うらみ山とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

近江の山とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

近江の山とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

近江の山とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

堅田 沖池浦 新字

古の山とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

みろの山とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

後山とよみし後山とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

堅田の池とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

堅田の池とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

堅田の池とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

堅田の池とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

堅田の池とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

堅田の池とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

堅田の池とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

堅田の池とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

堅田の池とよみし人波うらとろまき曙 慈鎮

蒲生野 同 類字

蒲生野 同 類字

蒲生野 同 類字

拾送

浦生形の玉乃小山に住露乃少年名高代乃教なり

好忠 後人 不知

夫木

浦生形の玉乃小山に住露乃少年名高代乃教なり

高代乃教

同

今ろみ乃乃小山に住露乃少年高代乃教なり

高代乃教

同

初てもろ乃世とらや高生形乃露乃高代乃教なり

高代乃教

勝野 原

近江

深遠 高嶋郡

新六

大田取ところりらふさ嶋の三乃れの神の諸しと思

思

同

此のや近江のみたれ山下風勝野とゆけの花れ者なり

花れ者

十首

葉乃乃そのあふはりの高も勝野乃系乃宿もあり

高も勝野

神倉山

近江

名寄 三當国 紀伊 有同名

名寄

忘乃乃りはじりりぬのきりたもろめの神々のれ山

云住卿

名寄

あらし山のあらしのあらしのあらしのあらしのあらしの

あらし

香取浦

海仲

同

下総 有同名 仙覚抄 三當国

名寄

いけの船のあのきのんの高のかのりのれ浦の漕の出の舟の

舟

名寄

大舟乃がとりれ海のあらしのあらしのあらしのあらしのあらしの

あらし

夫木

浪あつた香取の浦れ夕塔に降りうのうせは歎くうら

木正六巻四

龜罟

近江

新字

後拾

一カ代は子母れをこめてみゆり龜乃罟ちり松の緑に

歌集

千世之き龜の罟ちり小藤原うもつ此押れあけされ

詠藻

なとめらも思ふゆめとわかめ思よカ代を孫てあを搦て

夫木

龜罟ひまも二葉あけりあがさう年とほじつさるる也なり

河嶋

同

名寄秋花三當国撰列
有同名

夫木

川流や船本乃浪の破あきとあれうらんと六年とれまん

同

河嶋乃松の木陰れ浦あふ六代乃あひれいぬこま

家集

田上かて舟はく河そよは津山の渡えて獲家

名寄

見らる兒文吹くう波をみつるかあ津山れあう

同

田上よりあつらん人はけりしり

同

さうがをちりんときて津山の木あけさ言れ下のう

柏原

同

和名三當国伴香郡

海道百首

おひくさか山のとうり柏原りとゆえ浦

夫木

甲賀山 同 夫木三當国

同

みろ國か浦もの山れ日るるれ烟あせぬ歎とそとら

竈山

美濃

鏡池 類聚 同 類聚二當国或近江 常陸

夫木 多きいあ鏡乃比は位とくさつと類とるくてをみ

玉計集 面影みつくと同じ花れを鏡乃比はう清りひては 後徳

君も魚ん年代と鏡乃池あり初来うひてまある月くれ 保季

笠縫里 同 藤原

名寄 猿人み乃打とひ夕これのる宿るはおい乃里 四条

風越嶺 山 信濃 新字

山家集 かしき乃穴れははふは咲花の風越とをかちあらん 西行

手音 風越乃花より花あゆらん少りとのるに雲をさそく 季能

同 梅花とられ禁小窓のり白よちるう風あり乃山 公純

名寄 風越と夕さきくれの時鳥ありの言れ底小端あり 清辨

同 風越乃花より花あゆらん乃麻衣海よりして 新六

新六 爰あてう月みみくさきをよ言吹とあぬ風越乃花 為家

同 天乃原けりけさるさきと風越の冬うさえてこそ思ひ 衣笠

同 夫木 風越よそ海山本れう花も紅葉も五河う物 光俊

同 風越乃冬うとらうふりとも言升よみゆら月れ物 頼行

同 風う乃嶺さえ海の梅のふいとけうの也さそれ麻衣 覚延

同 少言小風越乃花は授てこえそまうく梅さそれ藤 兼昌

玉計 風越乃花あしこれ本音海川波もひるよあせとれ色 長明

千首 風越の冬よも海うね白雲晴初るるにけり浮る舟 忠彦

千首 くれ初とまのあふるまて風越の冬よもあれらま 為平

可保夜泊

上野

教字

万十四

かほけり乃るほやう泊の只ふつらひらぬまらわとを念

云々

金葉

東海のわやう泊れをらうらうまをこめても笑ふけり念

願喜

夫木

東路のわやう泊のまよ花海うまを形くせをり念

仲実

ふたつとてあはれぬるをらうらうまをこめても笑ふけり念

行徳岡

津奥

藤塩

六作

津奥はありとよちうらまをたれまを我身よとあはれぬ

批把
九杏

藤塩

さしも何うとあはれぬるをらうらうまをこめても笑ふけり念

かほけり乃るほやう泊の只ふつらひらぬまらわとを念

大伴
高女

諾山

森

同

藤塩

六作

かほけり乃るほやう泊の只ふつらひらぬまらわとを念

大伴
高女

方与集

かほけり乃るほやう泊の只ふつらひらぬまらわとを念

肥後

加嶋

同

教字

玉葉

かほけり乃るほやう泊の只ふつらひらぬまらわとを念

順

霞谷

同

かほけり乃るほやう泊の只ふつらひらぬまらわとを念

深養
父

かほけり乃るほやう泊の只ふつらひらぬまらわとを念

同

金山

同

八雲抄抄

万十

かほけり乃るほやう泊の只ふつらひらぬまらわとを念

人丸

夫木

金山はありとよちうらまをたれまを我身よとあはれぬ

捕親

顔湊

出羽

藤塩

懐中

かほけり乃るほやう泊の只ふつらひらぬまらわとを念

同

かほけり乃るほやう泊の只ふつらひらぬまらわとを念

同

帰山

越前

数字

三十五

家集

君が物も接られ始よ海うく山ありてよ 躬恒

同

杉るをうみなりとやりにしゆれ山は海つとねて 忠見

同

梅れ花のうらなひも海もせよ山して君さふらん 中務

拾玉

あとりつ我とゆ家の山れんは君さ常をうりれ 意鎮

愚草

まきうも越後不橋乃帰山名こそ雲ふくれうりけ 定家

同

いづりあを中とて海山かさねる君とまらん 同

玉吟

あれあてなるまを海山るひるふもて人乃新境 家澄

同

ゆ海山のしほきよ白雪れり初よりれあ一の旅人 同

建保

初人ゆう山海乃初あふありいもあぬ梅乃夕雲 源徳院

夫木

をのうもやまにあれあて越つらん海山海れ石金の琴 為家

同

初人うられやそ海山ちんそひいりさゆい初りり 共栄

草卷

帰山あひはあれあ一乃海は契やあうさまれうり金 後守和

夫木

家集といれ初ひまもあゆ橋は海山海り春風う吹 頼河

海山あひはあれあ一乃海は契やあうさまれうり金 同

顔池

藤原或人知

あといささけりてらんむひる教乃池よあやひると 僕人

掘路

池原小野

同

数字

まけりあられ池は信有れきてもあても君さうり思ふ 吾名

同十三

あまを切り池乃小野よあふをいひあやめ初うを 介元

家集

まののちの池れあやめ草中く縁糸えんも初ま 家澄

夫木

君さあれらるらる小野れ初霧よ今そ梅乃小初秋れあ 後九条

同

けり初乃上毛吹まそうり風よりられ原に初敷ある也 衣笠

夫木
あはれむ神よりかきあ遠津人なり比の小形れあふけり
君よおと立てもわくとも思ふ方ありし比のちあふ
信託

龍渡

加賀 藤垣

いあつふやまをくまふあ山伏れかこの海りも何事なる也
衣笠

香嶋

能登

藤垣 苗圃 和重 能登郡

あまらるる海をさうし七漕舟の帆取るあく好ありあ
大伴 家持

川貝河

越中

仙覚抄 藤垣云 姉 貝那

あつらひ河の流を瀬小河さしひとん立るり乃
大伴 家持

く貝乃河の流はく新水の流る事あくまぬいん
同 同
藤垣川 貝河乃絶ぬし今みくもやまぬ通りれ
同

亭見山

丹波

藤垣

思ほせくくみ乃山れありろく高うあ年れ扱はほけり
正家

神南備山

同

類字

丹波乃國くみさし山とよあつる
常盤ら神さし山れ林業とあてろ新うカ代乃あ 義忠

かめあ方あ取け神さし山乃林とま山れ粉
懐中 魚光
神もゆり山れきさつまあて河るうりう村をれ里

桂山

同

類字

新切
義保元年大嘗會主基款丹波國うろ山

又乃月の桂れ山人とああありに河ひは地あ
同

照月の極の山の家かして思ふに世ふ河の家林の義忠

加奈井山 丹波 藻塩

夫木 杉ふ事かきし山れを孫うをれをそぬ空方乃介 匡房

藻塩 いはらよるふらぬいの山水よ君う子とせれ影をみえ

神田里 同 類字

子早振神田の里れ橋たれ月日たよりふなり長 国房

万九 梶嶋 丹後 仙覺抄當国

夫木 暁乃夜ふらんつから海の磯に海れ志をそそ 宇倉

夫木 枕崎の磯吹こゆる塩風よ夕波さむも田霧うりあふ 行家

可家湊 同 類字

新徳右 万十四 あらう海りけの湊よ入塩乃あてり山と雲うて孫まくと 名

新六 垣ひふもあれ湊乃いり波よあつま家乃れ出るのむを 兼家

枯木浦 同 藻塩

懐中 枝も形くちの本れ浦も風吹へ波乃花をそりりみるむ

名亭 冬もれいこも海ようりあははさうは乃海ふさる月氣 顯明

神水子石 同情 藻塩

名亭 いろもあつ神の水さる昔はあはるは海乃るさる世よ

幸乃崎 石見 名亭 當国

五十一 あとさふくかの海ちるいさるあを海みる生は志磯ふる 人丸

形見山

石見

藻江 或紀伊

宮本川蛇之巻く麻衣うさみ山は嵐少くあり

鴨山

同

勅撰名取集三當国

かもし山の志孫志海け我とともく次と妹と行つあらん

可良浦

同

八雲抄或周防

仲つり塩満くくわの浦はあさりさうあつてさ

賀古嶋

淡驛

播磨

敷字

いさみ乃もめさうそふ思ふ心さひまわりのつみり

くふく又田島れつ吉とまめさそ鹿さかりかたれつ虫

かこれつ和れさく時あけ乃輝さくさくさく明ぬれさよ

くり海濱ゆれさるさうくせさうか出さかこれ紅人

くこの為真れるさうさうりし思ふさつさ小蛭乃釣舟

我意かくれ後乃けさく繩あゆさふんさむさうさう

打さてさこの後よりく鑑れ釣糸六君よ侍さうらん

身と捨てさこれ後とせり討も君つり社忘らりり

ね原さうこととをん次播さなれこのむさや秀ゆけ

辛荷嶋

同

仙覚抄

いさし事ゆれつ乃志海より家宿とこれさう山の

玉藻くわつさ乃活ふあさりはうりしは事や家思

三河塩れあうれつよ玉七刈あさうとをんあ育る此

むもろくわつさの活れうり死うま妹よささうこれさう

名寄 屍鳩

播磨 藻塩

ひりく人のあはれを知らずしては鳩あはれを知らず

勝間田清湯

美作

家集

みまらぬ圃まてかひまらぬのゆゑ

この名みらのまらぬも思はずはるる圃まてかひまらぬのゆゑ

唐琴泊

浦

備前

数字

波乃と風のひりく唐琴今ふりまらぬぬ毎人の神

名寄

今日も又まらぬやせま唐琴の目教ふるひく又月夜

夫本

佐吉のね風かふらぬと波乃とまらぬのゆゑ

夫本

うらふとれ波乃の流は毎まてかひまらぬのゆゑ

十首

あるくく人のみらぬのゆゑ唐琴泊まらぬ

春雨抄

唐琴の泊まらぬぬ月の夜ふき波乃の浦の唐琴

足月の松吹風の通ひまらぬのゆゑ

加佐目山

同

夫本 備前

夫本

天下かまらぬ山のまらぬまらぬまらぬまらぬ

神村山

同

藻塩

夫本

万代とまらぬのゆゑ子振神むらぬ山のまらぬ

神鳩

同

数字 紀列 有同名

建久九年大嘗会に基方清原氏より備中国

神鳩の波乃白ゆまらぬ

神鳩の波乃白ゆまらぬも賢くは代乃ありとまらぬ

神南備山

備中

保安元年大嘗会之基方山屏内由中園

^{名寄} 子孫孫神子山此椎柴乃名子の系影まづん
^{名寄} ちるゆり神子い世乃橋の系と音流さけても杉山人
清行

勝間浦

官

同

藻位 和名云作波那

^{名寄} 思ひ世よふ代乃孫のひれまよまの浦此名の娘
^同 千早振らるれ宮乃娘小松おいとむむきそはまの娘
元捕 同

笠間嶋

周防

八雲抄

^{夫来} 嵐ふかき海乃島と吹まらるる氷さうひく我孫
祐奉

亀頭

長門

藻位

あれまゝとつて京と出てゆらうとく
家集 田島乃わく龜れまゝとつて漕きて公海もかかめつた
佐礼

惜鶴

同

勅撰名前集三當国

^{五六} 長門乃沖津より海奥まで我思ひ思ひ子年にもと
萬六

神蔵山

紀伊

数字

^{續右} 三徳野の神倉山のふちみお初りて色程新水
八道前 大はる

形見浦

同

数字

^{行音} へりやまは乃らうみの浦も人からぬと奥の浦
^{玉露} 衣形又乃浦は云々浦てらまふ海流はこい
家隆 定家

やたし形見乃浦のうせ貝むりの中へあつし

八月乃形見の浦れ形見は出つりあつし

つとむら六波つらにそく行舟のうさ乃浦れ妻の所令

妹乃浦れつとれ浦れりり船よりそくみくは浦れ公を

思ひ出せ浦れ形見の浦れあつしこれ音のたつとん

深川舟真漕くしりりつとれ乃浦れあつし

あつし事れつとれ乃浦れらせ貝むりあつし

ゆくとち田つとれつとれ人妹つとれ乃浦れあつし

風莫濱 紀伊 藻塩

あつし乃浦れあつし形見はあつし

加信土山

同

藻塩

あつし乃浦れあつし形見はあつし

あつし乃浦れあつし形見はあつし

あつし乃浦れあつし形見はあつし

あつし乃浦れあつし形見はあつし

あつし乃浦れあつし形見はあつし

あつし乃浦れあつし形見はあつし

あつし乃浦れあつし形見はあつし

あつし乃浦れあつし形見はあつし

あつし乃浦れあつし形見はあつし

あつし乃浦れあつし形見はあつし

あつし乃浦れあつし形見はあつし

あつし乃浦れあつし形見はあつし

みかふ浦邊をみちを新麻話を約きう海をみて神
の奥あまひよなやけはさかぬあれきと思ひ
傳頼

右首鹿嶋とさけふ遊女乃れぬよめ
傳頼

神岡山 嶺 紀伊 藻塩三當國 郡字三
大和入如何

や乃山は新葉さうく新葉の山乃りみちのくさあめ
宗彦

見ゆせ六白ゆきまきて笑はきり新葉山に初梅は
宗彦

新葉乃旅の河くや拂うんせの山りふお屋ら
泰之

風早 伊豫 和名三當國凡早郡
或備後 云實

かきも乃沖つま系さひうく流さるるれむの浦
云實

鏡河 土佐 夫木三當國或越中

かみ川新葉乃月小庭をめぐらむとけ乃らつて
顯仲

くはまの海ひりゆと鏡河浅きくそを流し水
後人不知

を近乃岸れき柳いさかて洲津をみく鏡川
同

香椎 筑前 郡字

河津風吹くありぬくお海邊下乃きふと藻列て
小野老

初海り幸に我乃香椎波あきりぬらあふん
宇勢首 男人

初あふんやあ波れ清くまはぬの海に
小侍後

志保に海まはれ神とくお海邊あつてみぬと
信実

若崎乃海に緑あき香椎乃海に緑あき
後頼

金御清

類字

五七
らやあまう孫乃出清をされ大我言れをふれすあ新

百奇
けりなる金れ水清よぬきて人乃けりさ思ひをる魚

新六
白波乃岩より清をいさるん金の水清れあるりきれ新

家集
馬のさくう孫の雨あつてやせひあふあふひく海り成

空何守の金乃雨あれ浮枕着後も波よ幾夜つてそぬ

刈萱開

同

類字

新七
刈萱乃実也此の目見りつてく人ゆりさぬをあらり

乱衆
刈りりく心よりてあもをうの思ひをれ刈萱開

藻江
せくく萱のをれ形よ常く大文立るあつて乃実

可思布江

同

藻江

か 抽江よ田島島海つとるの浦は沖つ白波迄く

可也山

邊野

同

初撰在歌集三當国糟屋郡

万十
草枕旅とる一み衣とれかわれ山は棹系く

六竹
もろおえさくともかろ一れ岩れ上の松うえたふ久

史集
千おまれのわ乃山色よあ舞のゆり乱て妻と

同
な深さかわれく小舟れ萱遊顔をぬれりのけし

竈門山

同

類字

六病
おより西よありてふう海山相あしせぬ意もすけ

同
也中やちけさくあつて海山鳴ぬ思ひを何志

家集
妻よりえれあつてく竈門山燈さあやぬあゆ人

名号 竈山より東とされても惜きうか海と山とち大極の

匡勇

唐泊

筑前

五十

かろ泊の北浦波うね日河事とも妹小豆ぬ目さ

彦佐

海より砂ひくちひき唐泊い津ちうれいあね

夫木

遠風い海くくろりりうう泊の北浦舟船いあゆめ

中務

おひりあ舟船いゆう唐泊いあゆめあゆめ

宗良

鏡神

肥前

玉高巻

あふりいんころうく松浦ちう鏡の舟や暗よあゆん

勘字

同

岸とをく移るるあゆいかな鏡の舟とほりいあゆん

名号

あゆんといん心松浦ちう鏡の舟や暗よあゆん

宗成

ゆめりあゆと松浦の鏡よ舟とくいつく移るとあゆ

名

香春

豊前

万九

そ四のあゆりりいんいんあゆいんあゆいん

彦佐

ワキ

挿頭花山

同

夫木

まの目れがういんいん挿頭花ちうりいんいん

彦佐

俊綱

鏡山

同

万三

持りりいんいん國乃後いんいんいんいん

仙覚抄三當國近江三石同名

益人

大天乃親醜相やあゆ國のくみ乃山と宮と堂と

手持 女王

玉吟

冬國の鞍馬山の志戸をて堤まひ多しゆてとさ
やとほりけいひはみらとをまふ後山も我君れあ

平持
女王

新六

冬國のあみの山は早うあはしうりとて出づ月影

衣笠

笠縫鴻

豊後

新字

万三

志の山打城ふれあふあいの海に花くは棚音少船

子連
黒人

夫本

笠ゆひれ海立くはお音小や遠さうるあ船ト小舟
山ゆりあふくくあ夕る霞よりあ道橋花時

中務

新集

三ゆひの海を別潜舟れ詠替くゆのあれ世中
ふの山打出てみまのあむらうお月影さ寸笠ゆひの

宗良

名寄 舟橋 三苗 国

名寄 舟橋 三苗 国

名寄

香山

對馬

八雲抄

かの山は雲あまひとまの山はあひうとと後えん

懸鳩

未敷

干載

所花よりそとくも無海の海も山をへ思と郷

佐頼

將府原

同

新初

揚麻乃り海原とくまれおとあひの秋風を吹

如忠

河添岡

同

藤垣

河原乃ろくむ竹のまれをひ栲とも山の川うひれ舟

新六

川うひのせまのあうらあお打捨てうるあ川の下は栲

加佐々集山

同

粉川の親をいふ意は師よ昔好ひける奇

花衣のしるは山の多きてお葉乃洞の月と輝けり

笠置川

未勅

からまれ河風立ちぬ七夕の白雲れらるる水やうら

假寝畏

同

妹の形れり我の畏しは舞の我うとしお思ふれ

甲斐沼池

同

おゆいふ乃ちりよはらふとみろやよとくあひ活の

陰漆

同

月かき言とてうりぬねねと陰のみかたれ文書れ

恒津谷

同

しるはれ田とはれはらう山乃かきはれ音あつり

白雪の衣はをよ山あけの恒津れ音は日影やうら

竹敷山

同

夏衣のしるはれ花のちりおとけく成海らうら

柏枝宮

同

さし衣らりりりてりりえれきの昔もさうさ

貞婦崎

同

暖白のしるはれ海乃女郎花術のみあともわこ

神我平

同

垣をさいふせんらお田海海れりてはるはまれ

加古河

同

猿人の物打とては武蔵あつてあうらうら

河崎

未勅

聖観音とて先り

千目
芝下蓮の糸玉月じとひう川崎れとて

為尹

杜鴻

同

夫木
為とて多りりてとつてついでとて

後九

陰石井

同

同
とてとての志井れとて水まとおつてあなよとて

為衣

竹別入江

同

方与
昔よりとて風をて行くとて入江はとて

村

杏人濱

同

方
のりてとてはとてとて物まか人の涙とて

語畏

同

松葉集石削和歌集第五

與太

淀

川野渡里入江

山城

東久世郡

同
和とてとていぬとて淀舟れとて

頭季

同
めはりてとてとてとてはとてとて

同
とてとてとてとてとてとてとて

後楨

同
とてとてとてとてとてとてとて

後景極

同
淀川乃入江れ岩の柳陰はとて

家隆

同
昔思ふ淀の渡りれなよとて通ひとて

慈鎮

同
人よとて淀の渡りれとてとてとて

同

同
朝早くとて淀の渡りれとてとて

同

同
舟のくもとてとて小舟とてとて

同

詠藻

同

家集

同

同

同

同

新六

月清

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

我意の公傳くつ小形舟れ多小漕うむら流れあらしき 慈法

ふも毛今あつさえふいとと思ひ乳渡りもあふり孫成 俗成

絶と引くはれ里乃あめ字新万代も孫とむし人 同

あふれあふれ流るは海よりり流の海りれあふゆゆ也 源順

行人も海ももみゆり流川いさふれうあむいともうもけ 清正

流川やとてあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 兼輔

流河乃汀小舟あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 朝忠

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 元真

流川小舟あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 衣笠

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 後藤

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 甲斐

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 忠定

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 慈法

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 光俊

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 懐人

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 不知

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為家

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為家

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為家

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為家

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為家

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為家

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為家

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為家

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為家

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為家

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為家

良峯

山城

西山乃良峯のとりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 外祖又蓮生

法師田辺の花れあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為氏

新千

吉田

村野森官

同

近江有馬名

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為氏

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為氏

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり 為氏

天本 新赤色うたの杜杜方の花をさそぬ中杜花をさす 野宮 丸春

同 古河車を古河丸春のゆきを花らうきよはゆきをさす 付長

千首 能らり花古河のさめらうき思きて松風の髪をさす 為丹

同 古河車を古河丸春のゆきを花らうきよはゆきをさす 付長

同 古河車を古河丸春のゆきを花らうきよはゆきをさす 付長

万二 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

万二 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

同 古野 河山滝宮 大和 長野又豊 天皇 神製

万土
同十一
あつし那れかか海を渡る者よあまの川にそりて乱るんや
吾名

同十二
と常あつしうらた山をみわたる者よあまの川にそりて乱るんや
同

同十三
我せしうらあつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
母信

同十四
古とあつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
文伴
家持

同十五
凡そとくもあつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
女房

同十六
芳野の山をみわたる者よあまの川にそりて乱るんや
頭昭

同十七
我意あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
有家

同十八
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
家隆

同十九
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
家隆

同二十
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
隆信

同二十一
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
基俊

同二十二
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
顯作

同二十三
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
紀行

同二十四
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
同

同二十五
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
忠房

同二十六
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
源順

同二十七
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
同

同二十八
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
貴之

同二十九
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
信明

同三十
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
元真

同三十一
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
同

同三十二
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
忠見

同三十三
あつたはよらばれんれ吉野の山に水魚をさる
同

山家集

滝の流あまのさしつらぬ若野山雲れさるるいそとと吸

中勢

新の文花と鳥のさしつらぬ若野山雲れさるるいそとと吸

西行

うらふ多ふ花咲ぬれつらぬ若野山雲れさるるいそとと吸

同

さき野焼煙と暮る若野山花とつらぬ若野山雲れさるるいそとと吸

同

若野山若野山白雲の揚花もさるるいそとと吸

同

若野山旅寝とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山二ひつらぬ若野山雲れさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山花れ散りさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

若野山揚花とさるるいそとと吸

同

光明寺

安寺

衣笠

吉野山雪のりく冬は雪とちて海世と夢の風なるを は本極

みり雪を花の外にさむらわれや様立しれ風の白を云 同

同

且寸河 藤原云添上郡ヨシキ川ヲ 大和 ヨシノ河ナモホトイナリ

わさ子に衣まき白れうき月うとあゝあ姉の明心 云名

花の中へ春春日乃うう河とをよほくわら神 鳥家

同

余良山邊 八雲山抄并藤原當國 同

持うくれとのちりさひりるをささるる 人丸

因可池 河内 若寄秋花當國 同

いふふれさるる沈のうりくも君といふ縁の心 平名

いふふれ今朝の沈はるる今朝の心 後成

いふふれ今朝の沈はるる今朝の心 後成

いふふれ今朝の沈はるる今朝の心 同

いふふれ今朝の沈はるる今朝の心 同

いふふれ今朝の沈はるる今朝の心 同

いふふれ今朝の沈はるる今朝の心 同

横野漫 和泉

霜枯のりしれ境机ゆき入垣きくふる 友原 信光

同

吉見里 藤原 同

月とさしりしれ里の秋は若れ風さくさく 後成女

同

横山 武蔵ニ在同名 同

同

新六

ういすていふやきくつらうりよこ山麓れろく如ん 文信

懐中

余遠漆 和泉

名寄 秋松三苗園

常るうお世とれなと恨んふんれ定るきこよ

淀継橋

摂津

数字

懐古

浦の淀乃つと橋はきせむしりしと人と安海

経相

于音

又月毎よ淀乃つと橋はきせむしりしと人と安海

家長

夫小

少河川乃淀のけき橋しとく妻川海つ柳しけれ

為家

同

結孫うみめもあめ海の浦は海さういあき淀の継

隆祐

草巻集上

まの浦乃小若れ蓋をぬも海を河まで海つ淀乃継橋

中務

五月毎よ淀の継橋結しりいしまく海つ海の浦は

頼行

愚草下

依羅本林

同

藤原

思代るよ海乃杜れこことらに松と松を子交ま

定家

夜寒里

尾張

藤原

名寄

神ろひ人しるさ力とゆせんぬさむれ里小嵐吹也

顯仲

夫小

嵐少く水電乃里れ孫えよいしと人しを孫りれ

同

同

りろこまのひあしと分蓋敷をれ里の草乃松よ

仲実

字まの嵐吹く小海とや夜電の里れ衣ろ人

武範

新法撰

喚續濱

同

類字

鳴海写夕浪ちより立ゆりなよひつとれ浪よ鳴也

藤阿

横走

駿河

仙覚云ヨコエリハ三士アシタカ
ウアヒナリトキ和名云駿河郡

横山つと清見の園乃海海よ此はといふことかろくろくあり 魚蔵

呼坂

同

八雲山抄云當国凡
アツミナトヨメリ

東路乃てこれよひ坂越之縁て山より移れんも常りいほふ 云者

東路乃ての呼坂越ていほふ阿波の赤んをほあひあは 人丸

ゆららとを方人乃移る也我う後うたれよひ坂 雲寺

いまも名をも鳴也東ちてこの呼坂誰かあは 雲依

餘綾淡

相摸

八雲山抄云當国
和名云餘綾郡

お持海乃るれ淡のま砂るん子ら此れ思つ海がも 云者

横山

武蔵

八雲山抄

妹をよあひいほふ海よひま横山乃るらあは 云者

菅田 里村

近江

大雲宮乃屏風欽近江

ゆく水も菅田の里いらく回ひきて年一む新そみる 俊成

をれあふたの村乃妹おあ新を綿城よりあは 匡房

余左浦

同

類字

い乃海も凡勃あそぬおし新おさ海よりこの浦 俊成

かたてゆやこのいほは波をれて月より今松風を吹 如頼

しえ坊にいさうさるれ山下風 氷果は余左門海 日伸

よまの海ふらうされんし女あはまの羽衣なりんを 如忠

余まの海れおとやゆよりく烟の目かからぬあられ村を 西行

はれあふよこれ浦は歩あてりて行ふら紅をほし 頼河

横河

洞 峯

近江

数字

拾玉

けしきありし就るれは山の月影のよみれ水よりうつるるは

律師 隆覚

同

むもまれば月影のうつるるは深き魚のうつるるは

行真

同

くつれは河の秋のありしをみたりは洞は福を水をき

為家

同

かきあつた横河の洞のありしをよみれありしをよみれ

同

同

とよみ安流とよみ流を横河の洞の秋のくつる

同

同

を河の横河の水れをよみれをよみれをよみれ

同

同

さかたつとよみれとよみれとよみれとよみれ

同

同

秋風は八重とよみれとよみれとよみれとよみれ

同

同

奥山は河のありし花感を一とよみれとよみれ

同

同

依網原のありし花感を一とよみれとよみれ

同

同

依網原のありし花感を一とよみれとよみれ

同

同

依網原のありし花感を一とよみれとよみれ

同

古身村

同

近江國の古身村中

詠藻

若水郷

同

近江國の若水郷
或は近江國の和泉

詠藻

夜中鴻

同

近江國

万七

同

小水きては形乃流よおほくくくくくくくくくくく

同

同

接よあまの夜中とくくくくくくくくくくくくくくく

同

横田山 名亭

近江 藤江

ひやうよふ乃つとよ二田山みづらふれや一陰よかづれて 長明

右東れ負ふけの河近い玉横田とさきうよ流うとらん

横田のつらうれまきとよ好凡定も言古色くも 鴨吉の

横野 五十

上野 對字

紫乃根くふとをれ春の庵君とくいつく言ちくと 云名

草吟横野乃けくれ生ぬまは息しくよんかうふるうと 西行

ひらふきの絲くふとをれ吉約はまれゆりうらうら 家澄

春乃公乃ゆりゆりぬらん紫の絲くふ横野の言れゆく 弘相

同 霞もさけりにをりか糸乃根くふとをの秋はれを 行實

紫乃根くふとをれ春の庵君とくいつく言ちくと 云名

草吟横野乃けくれ生ぬまは息しくよんかうふるうと 西行

ひらふきの絲くふとをれ吉約はまれゆりうらうら 家澄

春乃公乃ゆりゆりぬらん紫の絲くふ横野の言れゆく 弘相

同 霞もさけりにをりか糸乃根くふとをの秋はれを 行實

右野

丹後

浦とくくつふつさあけもくかきて只の月と御也 安名

與謝 浦海法

同 對字

浦為ふ海引くもんよとの海は浦よ世代つら天乃橋立 能宣

同 浦とくくつふつさあけもくかきて只の月と御也 安名

同 浦とくくつふつさあけもくかきて只の月と御也 安名

同 浦とくくつふつさあけもくかきて只の月と御也 安名

六百番

よりの海乃沖は遠風浦よりの松をきりて今より遠

女房

千五百廿三

ら附乃浦は遠風松をきりて今より遠

後吉房

拾玉

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

慈法

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

同

よりの海乃沖は遠風松をきりて今より遠

同

一カ代濱

丹後

藤原三當国

漢乃名も悉く齡れあつてはも宗よはと一カ代の色

能野

山川

出雲

八重も五葉もれらうと五葉をふりてははる奥よるふよ

山も小いものころも方なれやうと此山の麓は信

吉忠森

未勅

ゆふれ杜乃下多事年とて志きつらうりいふ常

与宗津河

同

ゆふれ河少し淵定めあせとや我も少くおぼされ

興古祢嶋

同

よふれ祢下とくはせららりて若きうねとかくも

呼子山

同

名ふそらうよふれ山の呼子もくやうおまきあり

横雲山

同

名ふりし花れ尾よめりて松原くふまもこもれ山

名ふらるる花をよめりて花とあまりれ横雲

名ふらるる花をよめりて花とあまりれ横雲

新玉津嶋

山城

類字

今こゝに梅すもさささ文のれりよの浜乃おはせ

形じふ我有原の如よりはなれりや玉津嶋

玉津嶋も白けりよにそ葉れはあまりれ横雲

雄山乃ゆて花はくわりあてふる高は雲

う川暢れ越るるるに雲ゆかあるとれ山乃ゆり

老乃後乃坂ゆりさると山乃ゆりさるとふるさ

乃雄乃長ぬけのほとあるれ登さうひさるとまじ

乃や之乃たるとの山は玉桂とぬとも文うんじ

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

為実

成光

為家

西行実

巨房

清輔

不記

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

千六百

結ふ身志はく小月を宿うさきりたれや名よお小井水 兼宗

六百

玉乃井の汀ささけぬ山吹と人さきく小刀つらさ 重定

同

みゆかふあつちもささけぬ風之山吹の井れ里 俊頼

同

思ふいふあつちもささけぬ玉乃井の水 為相

同

海乃ささけぬみれ原泉河むささけぬ玉の井乃あ 有家

十

玉河 山城

六帖

玉川海ささけぬ海は拍船の原乃船ささけぬ 忠岑

同

海まもれお思ふお玉乃海乃海乃あさあおれやあさあれや 俊頼

續

玉河乃岸の山吹ささけぬささけぬささけぬささけぬ 俊頼

各寄

玉川の海ささけぬあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち 仲実

文奉

海ささけぬささけぬささけぬ玉河乃岸の海ささけぬささけぬ 克俊

同

玉河やささけぬ海ささけぬ海ささけぬ海ささけぬ海ささけぬ 俊頼

同

山吹乃花れささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬ 俊頼

同

ささけぬささけぬ玉川乃ささけぬささけぬささけぬささけぬ 定家

同

玉川の一流ささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬ 讀人

同

ささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬ 不知

同

ささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬ 武彦

同

ささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬ 武彦

同

ささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬ 武彦

万三

高槻村 同 仙覚三當國

同

ささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬ 連里人

万一

立田 山川原 森 大和

万七

ささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬ 長田

同九

物あやまぬささけぬ川新田山毎出せん日我無んを 王子

同十

吾去の七日ささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬ 吾名

同

ささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬ 同

同

ささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬささけぬ 同

妹の絶えく結いて龍田山今をみ葉初めたりとれ 吾右

夕去の馬乃越ゆる山河毎よさゆい色付はきり 同

悔されを鷹亮越ゆる龍田山立ててあてし君とて思 同

君より我名をさきた立田山終らるる志れあけははる 大伴

あけだ山見つて越ゆる梅花ちりらるる我入るる志 家持

あけて龍田川の底よまむ志乃らるる志きるる程まん 作者

春あけりやあがり郭もあけられ山よと啼らん 不審

唐衣龍田れ山ふゆやととほりちてあきりさか 同

紅葉れるるる時龍田河みかよりそ林は初め 貫之

唐錦河ふとさゆり立田河やゆれあのおさあきあけ 兼輔

龍田山空なりみちもさるる志方立こむる梅れ字なり 元真

あけ玉れ志きとさるる志方立こむる梅れ字なり 忠見

龍田山ありとさるる志方立こむる梅れ字なり 肥後

初男の立田れ山の紅葉は時てほりたるもみかれ 永縁

龍田河越ゆるゆりそるる志方立こむる梅れ字なり 匡房

梅乃乃立田れお葉あさるる梅あさるる志方立こむる梅れ字なり 大進

あけて龍田山とさるる志方立こむる梅れ字なり 俊光

龍田山の緑らるる夜もさるる志方立こむる梅れ字なり 孫昭

うららさるるゆり秋の立田河柳もさるる志方立こむる梅れ字なり 女房

志方立こむる志方立こむる志方立こむる志方立こむる 寐蓮

龍田山月とさるる志方立こむる志方立こむる志方立こむる 西行

新うつと柳乃系とあがりては乃あやさるる立田川の 慈法

龍田山うとあがり梅のち六嶺れ紅葉にあがりし梅なり 同

就田川流してありぬき柳乃りぬき髪とけつる雲風 遠鎮

津橋する就田河原乃り川風はゆきとぬきとけつる雲風 同

就田河原乃り雲風とけつる雲風とけつる雲風 同

夏衣多門たの山はあやてぬきとけつる雲風 同

阿や河や雲とてふふと就田河神とけつる雲風 同

就田山流るる水葉あつてゆきとけつる雲風 同

立田山楢乃り色をみゆきとけつる雲風を吹 丹後

紅葉いづつとけつる雲風とけつる雲風 同

あさ緑松よ雲乃り色をみゆきとけつる雲風 同

就田山葉の里の遠けつる雲風乃り色をみゆきとけつる雲風 同

立田山流るる水葉あつてゆきとけつる雲風 同

梅風れぬ川大山より流るる水葉あつてゆきとけつる雲風 同

高園 山野 尾上宮

大和 新宮

西より初きとけつる雲風とけつる雲風 同

かゆとけつる雲風とけつる雲風とけつる雲風 同

大夫の高田山に迫るれ、雲乃り色をみゆきとけつる雲風 同

春れるとけつる雲風とけつる雲風とけつる雲風 同

雲日神の雲乃り色をみゆきとけつる雲風 同

雲日神の雲乃り色をみゆきとけつる雲風 同

高園の雲乃り色をみゆきとけつる雲風 同

雛子鳴たふと野に花散りてゆきとけつる雲風 同

雲霞多ふひくく夕月おほく照る人さるの野に 同

同

我々おとせむるは河のほとりなる宮の神人なりけり

雁今とて渡りて今よる園の野の上れあり色付はる

里色きに雲のよるをこれ山の司乃りてはくをれ

をゆれい空の色漸は蓋とてみらぬをるぬれ雲の計

夕去る雲の空にさるる雲乃山れ木ぬる雲を路に

高き乃花吹くぬれ絶きさゆりてをるる

天雲よなるゆりなる雲のたれ下葉紅葉の

女郎花ぬれぬれき棹麻れ雲をわく人なる雲の形

宮人の神つゝ衣秋葉よさすいさるる雲乃ま

高園れ雲のすれこれ野つゝさる今さるる人ぬれ花を

たふゆりぬれぬれ上乃新雲なる雲嘆とて出さるる

高き乃雲の上れ雲の雲よをりぬるる雲の雲代りて

高き乃雲の雲なる雲乃雲はわはるる人我大君の

大君の雲なる雲つゝ高き乃野へさるる毎に新雲

高き乃雲の雲の林ぬれさるる雲の雲とて雲の人

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高き乃雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲の

高間 山峯杜宮 大和 敷字

川原神屋

家集

山家集

拾玉

名序

同

百首

祝六

原

清

雲集

明

首城乃言其れ其の人も知てふあしゆと今そふ一化言名

さろ山忠孫よせゆ君のねもあろくに侍とく白雪 家抄

中をふかをくして郭云言同の山に居越おちり 西行

所もろぬ花れよめと人ころるれ山乃八雲の白雪 慈法

白雪ふくはも人し波高城や高間乃月を風吹ちり 家隆

かあやゆやれとをや白ふた言夫の嶺れ花乃威を 但馬

杉人乃子向を人し波高乃川も波のちよのみ身多乃比 行家

あさらるるあかたれくく言言夫の原れ針もみま 隆祐

久望れ言夫乃杖の河もてや雪れをそは深をく人 隆経

さあふみの言夫乃杖れ月もい雪もくは波く不郭云は 教経

言れ群も高間乃あまも山よ志めゆ音うりり 行純

うはらふれ波の白雪くはり言言夫の山に花数うも 隆祐

えのれ行てもおめ首城や言夫れ様白ひとせ 家隆

恨とや言るれ様白ひととを言井乃と山よ御多所重 為家

雪井もて初堂もとてつふ言言夫の山に雪もり 隆成

よそつれ言言夫乃山乃山乃山に言じうり声をるれお 行家

やとよるの言れ神さる集もり言夫の原に言じり 鎌倉

葛城や言言夫乃山小言消て言り一風は言れくけり也 隆祐

うもや言夫乃様言ひも言よりほ色ゆ人頼れ白雪 兵衛

いろけとも言君れ里よ孫孫て山時鳥も言る言そ也 為家

高山

大和

新字

あく針意つあく吹言山に志根も言て言かま 船名

逆言乃根云とうも高山のいんゆれ上は君言あ 皇在

五二

五三

高市乃若れ美志のきほきねおとらふもきねのけく 三國真人

小波入人出らん月とさる山の雲の白雲くくらん 人名

まゆゆいんわく妹いさし山れ殿のおきさくらん 人名

高市の岑初とく乃なわちと神ありおとらふと 同

高山乃若りと流ら初れきいほして悲てふ 同

高市の巖よさう若の孫乃ねもさくよ降く 同

高山の若さくさい 新六

今もさし山 名寄

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

三國真人

人名

人名

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

万葉才二天和同廿三首ノ歌中

藻臣 和名ニテ市郡

藻臣

名寄 秋枕ニ當国

高市乃若り 同

高市乃若り 同

高市乃若り 同

相模

いふ乃のやありく花の御水乃流の宮古み建と何うぬは 人丸

月影れ宿りてみく玉もれ流ははるあよ秋風う吹 光明

今いふも水色うけぬお水の流の宮古み建と何うぬは 光明

あえくは影の流ははるあよ秋風う吹 光明

高野原

大和

八雲山抄

秋これ今をみろとも書えよ舞鳴しとて舟原の上 長皇

見後せもあれり舟のう川木系信白妙よ鳴よはるか 文逸

平向山

同

割字近江三首同名

白妙よあひさむひしは綿置子向の山は花や散る 源鏡

桜咲ももきれ山よ風吹もよこしはるあよ秋風う吹 行意

おめとともぬきになくお花をれり子向乃山は春乃う丸 定衡

は原姫乃をよめりて子向山をへくは花を散る 後成女

春へまよるの錦を平向山ぬきと散るお花はま 内侍

吹風と神やいさあゆ子向山とまはるあよ秋風う吹 花宗

まよるあゆ子向の山は山風はけよあ花は神乃ゆ 康光

あ川流はまきれ神よ平向山花は綿乃うも定め 定家

あ川流はまきれ神よ平向山花は綿乃うも定め 定家

あ川流はまきれ神よ平向山花は綿乃うも定め 定家

あ川流はまきれ神よ平向山花は綿乃うも定め 定家

あ川流はまきれ神よ平向山花は綿乃うも定め 定家

あ川流はまきれ神よ平向山花は綿乃うも定め 定家

あ川流はまきれ神よ平向山花は綿乃うも定め 定家

あ川流はまきれ神よ平向山花は綿乃うも定め 定家

竹原石井 大和 藤塩

竹原の石井の池 藤塩

絶間池 藤塩 當国 或 其津

絶間池 當国 或 其津

絶間池 當国 或 其津

絶間池 當国 或 其津

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

高松山 野 藤塩 或 丹波

定家

康定

藤塩

當国

其津

丹波

野

高松山

野

高松山

野

高松山

野

高松山

野

高松山

野

高松山

野

高松山

野

高松山

野

夫木

本集卷三

雲山は日影をわたりての光れり此の山とて多山人と云
行旅

同

山は多山人の影をわたりての光れり此の山とて多山人と云
後水

同

龍田山は水も不絶けり此の山とて多山人と云
知家

夫木

多能武池 大和 八雲山并 藤原三當國
隆博

竹魚山

同

藤原三當國

夫木

竹魚山は水も不絶けり此の山とて多山人と云
元九

龍浦

同

藤原三當國

吉野川は龍浦とて多山人と云
元仁

高城山

同

勅撰名所抄吉野郡

夫木

高城山は水も不絶けり此の山とて多山人と云
釋通

夫木

天の原に雲や指す榎木の花をさゆ依のこ高城山
知家

夫木

打らひさ春さりてれみりけり此の山とて多山人と云
後水

同

青は山を越りての山とて多山人と云
経宗

夫木

多武山 同 仙覚抄
皇王

本集卷三

太奈久良野 又云 牛松野 大和 教子

萬九
あつらひのふらふらおぼろけのつらさ
白雲乃平松の野に女師も誰と
花の影乃も紫れ葉枯も方なる
あまの平松の影れ梅花舞れおきれ神句也

多藝津河内 同

五長
吉野河津はうらにさあそる
山河よりてはつらなれば
みづのたつたつた地乃さの風

珠城宮 山 同

ゆきりのれむさの宮の雪
目みく珠城の宮の梅
地乃よ圃りくもる春向乃海
くはるえとて玉の宮の玉
里乃此よふ雪根れをえて

橋寺

河内

橋乃ちの長よ我の糸
ありありとあり
あまの神れをさう
名にわ橋のちれを

高瀬 渡里川嶺

河内 敷字

六帖 山も枕も色も流のり藤れふと我も去りて都人 信実

六帖 いくさて海もともらんあ月多よる舟の流れ水増り 師時

六帖 藤枕も流れ流し立鴨の羽多もくもあつれくも也 頼昭

五代 くらさうたも色の川の流らりも夜も神の湊ゆらん 信実

各寄 山も枕も色も流のり流れ里の流れより人りもあ月多の流 信実

各寄 くらさうたも色も流のり流れ里の流れより人りもあ月多の流 信実

夫木 移りも約様もさうあひうめて花もさう流の嶺の白雪 為実

同 浪らりも湊の海もあるむさう流の流れあ月雨の比 信実

同 藤枕も流の流れよらん流れよらんもあ月多の流れ 家長

幸居集上 山も枕も色も流のり流れ里の流れより人りもあ月多の流 頼河

竹河 同

催馬 ぬけ川乃橋の流らり花雲の我も去りて都人 信実

家集 神代よりさうとあるあ竹河乃流れと去りて都人 信実

竹川巻 竹河は色とあつりしと流れもさうとあ月多の流 信実

同 竹河乃橋らり流れ一柳も流れもさうとあ月多の流 信実

同 ぬけ川の流れもさうとあ月多の流れもさうとあ月多の流 信実

王吟上 流もその色もさうとあ月多の流れもさうとあ月多の流 信実

夫木 山も枕も色も流のり流れ里の流れより人りもあ月多の流 信実

七帖 後よ又あつりてさうとあ月多の流れもさうとあ月多の流 信実

草彦 ぬれもさうとあ月多の流れもさうとあ月多の流 信実

夫木 竹河乃流のみとりも白妙れりあく宿る月の影 頼河

夫木 竹河乃流のみとりも白妙れりあく宿る月の影 隆信

玉田横野

河内

漢塩秋枕本ニ當國入又播岡
奥列也依之玉田横野奥列上云

取はらひ玉田と時れんるを物指のきくははせむ死

高安

同

数字

龍回山麓乃高とある也其里六葉ありと云ふ

雲晴ぬ停泊の山れりる人林葉もあはる安乃里 家長

白波の立回れ山と越ゆる雪ありひくもあやせ里

安のみりも早くるれきりもつらむれをまを越る 行家

さうもまひらつりおたりか海をいと海乃山と越ゆるも 云朝

かぢらめつらひるめの家打後ぬ越風をふる安乃里 同

さうるる停泊の山れはれ山はれをらりちるもあはの里 為家

これのそ独立田の山れ海有明乃月ハ安乃里 鴨

玉横野

和泉

数字

浣夜露れえとつらりむれよと世の秋れ月影 護人不知

雲さうふふ峯れ木枯吹かひさむ乃横野に後雲 家隆

吹母きりそひらりる白雲の雲れと野の秋れ初風 秋河

高師濱

同

数字

身とある海へ今もつらりる乃濱よみはる邊 躬恒

和泉ちるる師乃濱の海おれは後左れ里とあはる 家隆

うのほれさりの濱れと砂地よせひらね根とあはる 家隆

真津はな乃濱のらよあはるはと定ぬ秋乃ゆ 隆信

我意ハ高師の濱小あはる乃乃初て行人音とあはる

神集上

建保前集

悲よふもなれ浪衝あしくゆつ神れあし浪

後多羽

おさ川浪あし乃浪のねもれあつりり此名よ社まを

須渡院

うらほもさ師の浪のまき種れろく海色をさ枝也夕り

立衝

風河さほやたの浪のあをみひしつ終あつ

後成安

うひもいんあひてもさく海のあしれ浪よ神はつ

兵束内竹

まき名れもせななれ浪松のほきろ比をふ恵也海は

知家

息すそふみのさ師乃浪千鳥されもめつうこみあき

龍宗

袖思よめれあつりの浪松のすれむじり此名よありつ

行家

吾名乃もなれ浪のまきえふいふめつれ終を吹く人

康元

浪凡乃音もさ師乃浪ねも度てうゆ春乃夕ちみ

平親清女

仲つ浪あつりの海の浪風よあやまじりもさ啼也

乙長

ふりかみのもあつりれ疑乃あき長神まきわかんほれる

妙子

風吹いたりの浪のあしほと流もさひひけて衝也

頓河

高津

言

楳津

数字

久方乃天のしつめつ石船れそく津のあせひつ

角麻呂

まき六ありあつり小もつてまじり津のあせひつ

中宮權太

心もさ人よもせもあつりくう津の宮乃春れめつ

益鎮

郭もさ津乃宮もれらりゆやれまその色れも

同

松川もいれもあつりあつりあつり津の宮れ海の夕

同

古乃面氣もいれもあつりあつり津のあせひつ乃指に

同

あしもさ六罪れれれもあつりあつり津のあせひつ

師光

船もさり津のあせひつあつりあつり津のあせひつ

同

葛ふりもさ津のあせひつあつりあつり津のあせひつ

後多羽

同

同

夫末

同

同

同

拾玉

六百

五二

草上

同下

新上

方与

同

同

同

同

同

同

同

古乃之津の宮れはかりて虫の跡のこし秋をさしぬ

河まはるたる津のなれ後茅原程む志きの村もれ家

春のねれ月小昔也思ひ出らる津のなよ旬小梅久え

田蓑鳩

掃津

落けられ昔よはる猿志多みおれ鳩の名ようこれ

誰う空難ぬの地れさる小田蓑乃鳩れ落の秘群

霜らむじ田蓑乃鳩よまじ民の名ようこれお神也さるん

あらくるあまの鳩小月さてかさのてけさ鶴れ毛衣

中く小あつあまのあまお想残うさるたれ鳩のるれ夕これ

麻衣田蓑乃鳩よあつあまのあまお想残うさるたれ鳩のるれ夕これ

あつあまのあまお想残うさるたれ鳩のるれ夕これ

誰人乃らくお想も白妙れ田蓑の鳩れ雪のあは乃

鶯の鳴田蓑乃鳩也河あつあまの拍子も梅風を吹

りくゆくくあれ田蓑乃鳩守も雪うらめをほわあふ

あらくく梅のたもれ鳩像も付て小蝶も神也あふ

打らる我神けりてあつあまの田蓑の鳩の雪れ白飯

あつあまの田蓑の鳩の雪れ白飯

あまのあつあまの田蓑の鳩の雪れ白飯

あまのあつあまの田蓑の鳩の雪れ白飯

あまのあつあまの田蓑の鳩の雪れ白飯

あまのあつあまの田蓑の鳩の雪れ白飯

あまのあつあまの田蓑の鳩の雪れ白飯

あまのあつあまの田蓑の鳩の雪れ白飯

玉河

里岸

同

数字

百二十八

右以文長

明長明

法師

覚正

定家

家隆

宮内

行意

定衡

兵束

内侍

知家

範宗

行家

知家

忠宣

後成女

頌徳院

為尹

玉川乃里しゆみは是なりん月影さくは空に卯也 慈鎮

卯花れも葉うよふ見めて苔よ波るは玉河乃里 同

うけき垣花の感よぬめし苔に波る玉川の里 同

浪乃きおたれ嵐よ雲ゆかり卯むらり玉川の里 家隆

月の秋雲れゆたき卯花れ雨影さぬおほれ里 同

卯玉よぬれ日なりとてさる月よりうぬおほれ里 定家

卯花れをよもせうとて月ちれは波そ立そふ玉川の里 同

夜乃をくりわらふれ卯花の月とやとせ玉川の里 後藤

しるふ小露とさ波を卯花れ垣絲つとや玉川の里 季徳

うの花やけとけりて咲ぬ浪よ色ゆき玉川の里 寔蓮

玉川の岸の卯む笑ぬ雲行とせぬわらり玉川の里 良平

浪やぬる雲やけりりと卯むの雲海ふり玉川の里 忠良

卯花の垣絲つりは雲やうてるれり玉川の里 寔蓮

玉河小舟れあみよもせり入影もぬ卯花乃比 定家

爰ゆき里とぬてさむ月れ影とみるけり卯花れ波 後成

ふあきとぬてさむ月れ影とみるけり卯花乃比 後成

うしてさむ月れ影とみるけり卯花乃比 後成

りつとぬる雲とぬてさむ卯花れあえさる玉河の水 忠度

垂水神

横津

切りぬる人乃ぬめとる雲ありし波をぬるみの緋れ垣 佐頼

垂水

同

余幸なりふりしと雲そく雲あり水と結ての波 名

散本集

拾芥云横津祈雨十二社 内ナリ

五

藤原

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

石走

若持くく角はれ乃早藤れえ出る春に成りたるは

石走無水乃あれくは也思に急く我のく

さくひれ今も初も成あらん垂水れ妙思くく也

思そくもきたる乃よひさひ日氣打あひたり垂れ初気

けされい急あの上れくも縁をれとつりりゆりあま

はらわたりるれ枝の子藤乃初も急あらん乃いん

高師濱

撰津

大付乃師の流れねと枕ねあより家いれんゆ

何れれく乃流れをるれねまひ分けて我急あ

大急あねれくはと枕よそ師乃流れまら初れ

玉江

三嶋乃乃江れ昔とと也よりとれくを思ふいん

何れれく乃あめいんくも玉江れ昔あめを授せぬ

ゆきもく玉江乃昔もと我初てくも冬れぬいん

いんく乃くは乃布とみくつ玉江の昔乃花あそ

みりりい昔れあ初も昔あ後玉江乃流とはる昔弱

はなは玉江乃昔も乃序れ色乃月小立るあき

乃玉江乃昔乃昔あよとてくも初とんあめ月あ

く初も玉江乃昔あよとてくも初とんあめ月あ

三流乃乃江れ海も流れゆて日とあつ六月あのは

仲乃急急初あゆる三流乃乃玉江の昔乃急あて

あき海も玉江乃流れあめあつあめあ初とん

みきりりあれ玉江乃流れあめあつあめあ初とん

風物乃玉江乃流れあめあつあめあ初とん

中務

志貴皇子

名

俊成

初門

俊成

仙覚抄

置始

東人

定家

隆孝

敦宗

匡房

国信

初徳

後妻

定家

同

家隆

同

相模

佐和

同

中務

同

同

本集卷七

三十一

本集卷七

三十一

史本

山集上

建保

同

玉乃いよきゆめをみればとこれい末の世をまたみし
後集上
後集上
建保
同

經仲
後集上
内侍

太刀造

持津

兼字

後拾
壱百
壱代と君ももしと新まつちちかはりいのちり
後拾
壱百

後集
兼字

高濱

同

類字 俣邊 有同名

續百
新六
いよとこれあといふらん白妙みくもさるは濱の好なり月
いよとこれあといふらん白妙みくもさるは濱の好なり月

右山
天皇
史後

同
いよとこれあといふらん白妙みくもさるは濱の好なり月
いよとこれあといふらん白妙みくもさるは濱の好なり月

隆孝

玉坂

同

いよとこれあといふらん白妙みくもさるは濱の好なり月
いよとこれあといふらん白妙みくもさるは濱の好なり月

家集

六百

拾三

いよとこれあといふらん白妙みくもさるは濱の好なり月
いよとこれあといふらん白妙みくもさるは濱の好なり月

忠見
顯昭
慈鎮

五代

いよとこれあといふらん白妙みくもさるは濱の好なり月
いよとこれあといふらん白妙みくもさるは濱の好なり月

名寄

本集卷五

王吟

類聚

史本

名寄

名寄

万六

續後

いよせんとあつさ月と約えてもね玉返れ止鄭云

春風ふ今氷も玉返り比の如くはしけり

海世よ六河りえんも玉返れいよせんとあつさ

河もつよあつさ玉返り玉返り玉返り

玉造

掃津

名寄 教松 當岡

佐吉のかられ果の玉返りねりぬるぬる六杖と出

直越

同

予くあえれはるがて押照る那波の海と名付けし

玉出水

同

教字

あつさ玉返りあつさ玉返りあつさ玉返り

誰其本林

停賀

八雲抄

さよあてあつさ玉返りあつさ玉返りあつさ玉返り

平節崎

停帆

藤注

あつさ玉返りあつさ玉返りあつさ玉返り

十鴻や

同

西行

あつさ玉返りあつさ玉返りあつさ玉返り

あつさ玉返りあつさ玉返りあつさ玉返り

竹都

同

教字

あつさ玉返りあつさ玉返りあつさ玉返り

あつさ玉返りあつさ玉返りあつさ玉返り

夫本
竹乃官内...
新勅
吳竹の...
後成
菊痛

高溪

俣洗

家集

いその海...
中務

多計河

同

名寄

多計河...
隆心
法師

多津我義坂

同

夫本

殊るれ...
續人
不知

滝原

官...
藤隆

夫本

白糸乃...
延季

流の...
為家

流乃...
経信

竹屋里

冬河

藤隆

流...
延季

高師山

浦

遠江

数字

高師山...
たけら
里人

多...
基友

東...
仲実

風...
意法

拾五

春乃月とあかしの川も跡も残さず師の山をぬきの途よ

蔡鎮

名寄

白浪ぬきりし川の林舞より土砂吹きまき浦風くくろ

成茂

同

忠傳ふ花乃のゆきぬくゆり越てさうらのまれば山凡

後丸茶
内倉

同

おんはよ湊とせつな船もさ師の山れお葉也きり

西井

同

さる舟い川よひきりきりれやさ師の浦うつく白波

窪河

同

くゆか川入垣きり山凡さ師の奥と甚海さる也

小室相

同

高師の花をい宿とあまはる多越のさるれば終末

岩相

類聚

はつくとさ師の山よゆゆれ終末をすおれ地いれさる

頭補

夫本

さうゆ孫の多とくさりれくおおとさ師の山よさりみり

中勢

同

高師の山多とくさる富士の根と終るさる今もあてをさる

善家

同

たの山越えてこれ淡松の一とらさる浦の今も

善家

同

仲波流さ師の浦の夕雲あつて淡松の山もさる浦の今も

長方

同

高師の山紅葉さる吹風入るゆきゆれ色深はる

為氏

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

同

田子浦

田子浦

千五百
妙れり
新六
夫本
行察

の浦
行察

の浦
洞院
核取

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

の浦
洞院

相坂小ひらく人約と娘号れ立神ととまら海川たれ貫之

夕暮のちり神れ約と川程はやふんく人開の杖立 依成

那まら大立野の神れ家ふくくも立神人あつた 家澄

猿人の立神れ京の唐津よりくく次妹蘇乃花 冷泉

小男舞乃立野の唐津よりくく家蘇乃くく吹嵐式 云朔

とくくくとくく神れ扱より約のあつた城めお坂乃開 季理

春石位立神の唐津よりあは冬あつた川む約といゆり 通平

今と程妹より花れ百勢小く川登れ京の霜れ下ま 頼阿

さりれあつた神れ海をくくあ付て神くくくくくくくく 頼阿

...

...

田能武澤 里 同 八雲抄并 類聚未當四

忘ぶあふぬむらびと立神といくく風乃妹乃夕暮 持以太

妹乃名乃ふきあつて歌海より神とたのむれ以よつてん 有泉

今とんと妹とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 俊平

...

玉河 氏 類字

...

...

...

...

玉河よりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 家澄

玉川よりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 家澄

...

高同浦 類字

...

...

...

田邊儀

常陸

懐中
夫木

いさぢらぬあはれ磯よりあて風とあはれ浪れり人

後人
不知

夫木

いさぢらぬあはれ磯よりあて風とあはれ浪れり人

同

玉横山

同

藤塩

原

あつ約と山野小くくしりてあつ約の横山ゆりやん

宇邊
黒女

原

明守れりあつ約の横山ゆりやん

須仲

雁鳥尾山

峯

近江

敷字

新巨

寛治元年大嘗会屏風

匡房

夫木

いさぢらぬあはれ磯よりあて風とあはれ浪れり人

後人

同

いさぢらぬあはれ磯よりあて風とあはれ浪れり人

臥浦

同

いさぢらぬあはれ磯よりあて風とあはれ浪れり人

資宣

玉緒山

同

敷字

拾

いさぢらぬあはれ磯よりあて風とあはれ浪れり人

後人
不知

夫木

いさぢらぬあはれ磯よりあて風とあはれ浪れり人

行家

同

いさぢらぬあはれ磯よりあて風とあはれ浪れり人

夫後

同

いさぢらぬあはれ磯よりあて風とあはれ浪れり人

隆精

玉野原

同

藤塩

縁彦

いさぢらぬあはれ磯よりあて風とあはれ浪れり人

徳成

夫木

いさぢらぬあはれ磯よりあて風とあはれ浪れり人

匡房

色くのみ葉紫の露とてあて玉那れ糸糸月をみさる
家徳

後拾

玉舟

進江

新字

後拾

水くしりありとてあて玉那れ糸糸月をみさる
終光

千載

玉河

同

新字

凡雅

化那の糸乃末に糸糸月をみさる玉河乃玉河
同

後拾

梅葉れあて玉那れ糸糸月をみさる玉河乃玉河
仲光

丈舟

勢乃中れ玉那れ糸糸月をみさる玉河乃玉河
家徳

新抄

高野村

同

新字

我君乃あての糸乃末に糸糸月をみさる玉河乃玉河
匡房

名亭

高槻河

同

康彦

近江のあて玉那れ糸糸月をみさる玉河乃玉河
匡房

万九

高鴻

同

新字

同

高鴻のあて玉那れ糸糸月をみさる玉河乃玉河
同

同

足利のあて玉那れ糸糸月をみさる玉河乃玉河
同

同

高鴻のあて玉那れ糸糸月をみさる玉河乃玉河
同

河津波を流るる河津をそそぐるは河津津原 長方

真名より出づる河津と今もいふ河津の河津 知家

河津の河津を流るる河津の河津 後九条

河津の河津を流るる河津の河津 家隆

三年河津の河津 光俊

河津の河津を流るる河津の河津 家隆

河津の河津を流るる河津の河津 光俊

河津の河津を流るる河津の河津 基俊

河津の河津を流るる河津の河津 為家

河津の河津を流るる河津の河津 衣笠

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

河津の河津を流るる河津の河津 行家

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

玉松山

田上山

近江

敷子

万三

ゆふゆふ田上山はあき高ききりても何もしめぬ

玄名

湯百

あふまればやう網代日とつて我んまよはる比ふれ

困信

同

何れも本小綿よりうく田上やそれねしよ本葉あは

師頼

同

田上やそのむしききひあひまら網代本とてえ根

頭仲

同

風吹田上河のわし流本は散れぬきり日とてそよ

神安

同

梓あつて田上川の網代本れぬらういひをそらうと

孫仲

拾玉

たさうとや網代本あつたれとてそよよ夏の涼と一か

慈法

名号

田上山乃本葉小海あつて勢田れ流うまに好風そ吹

中務

同

田上やその流りよあつてそよとてあつてあつてあ

母徳

新六

成るは田上山流りよあつてそよとてあつてあつてあ

縁盛

玉吟

あひくともききあはしゆあつて田上山れういひあつて

家隆

走本

里人乃多小あきうあききよれ田上山よなまにをり

若家

同

卯花れ咲あ一日よりゆふあつて田上河よ流を立そあ

隆祐

同

子早振田上河の流は深小千年と祈ふな後して

長範

同

近江の海せればさういふく多田上とてうらたそり

不人

同

ひとれらうあつて海も風をそ田上川乃網代うらん

玄益

草名

綱代本は綿よりうく田上乃河うれ山川本葉らうら

師頼

同

風吹田上河乃少る水も流や絶く網代りうらん

頼阿

立入村

同

藻江

走本

のりそてあつてりれ村乃白兼のそて幾秋れ流あつてん

俊光

立入

同

藻江

名守

玉村

近江

名守三ツリ

梅のつて春のけりけき初春よちり久ちり玉村角 義方

丈夫

玉津小河

同

藻詠

玉津の川にさかえの思ふ心よけり久ちり玉津 俊成

丈夫

田中村

同

藻詠

白もれらと名のぬりてめいたあれ梅のやきけり 隆房

寛治元年大嘗會

高田村

同

藻詠

あれ下りてそとあつらふやあつらふの村のあはれをき 隆房

万代

高見山

同

藻詠

高見の山にさかえの思ふ心よけり久ちり玉津 隆房

ま本

萌生のほいさくらりあそびくたれ山の原乃子 藤葉

詠藻

高御倉山

同

藻詠

高御倉の山にさかえの思ふ心よけり久ちり玉津 俊成

詠藻

玉陰井

同

藻詠

岩のりり玉のけり井此深きひさ年の梅と松風を吹 俊成

詠藻

高宮郷

同

藻詠 和名大上郡

七々ふしおひくあそびあそびれあそびれあそびれあそび 俊成

同

宮の里にさかえの思ふ心よけり久ちり玉津 俊成

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび 俊成

玉津

高見

高御倉

玉造河

近江

夫木三當四

しらしし君も代共河もさるるむつり河もまじり
いふて一代照と月されば庭をみせり玉造河

元補 後人 不知

多藝野

羨濃

藻塩

昔より久いしる老人のよゆて水れ名よおん遊ば
たし河の流と清と昔より文仕せんまのゆれよ
みれおまゝのくよよあはれ河もさるるれて流そのと

大伴 東人 大伴 家持 去覚

高井

同

数字

昔より高井の流と清と昔よりとゆつと今んまのゆ
我神の流と清と昔よりとゆつと今んまのゆ

大伴 家持 高井 高井

同

宇と川の流と清と昔よりとゆつと今んまのゆ

大伴 家持

谷汲

同

毎流の谷汲と清と昔よりとゆつと今んまのゆ
古と照と佛の流と清と昔よりとゆつと今んまのゆ

覚忠

高井山

信濃

藻塩

ふれよいよもかほしし信濃河やさあのを山れよ乃
なれよいよもかほしし信濃河やさあのを山れよ乃

衣笠

鳴里

同

藻塩

信濃の里の郡と島よと島神と島れり乃里と
玉の流の思ひ給てと島神と島れり乃里と

肥後

懐中

同

懐中

多胡入野

上野

仙覚抄

^{カ十四} 何と云はれざるも此のまはれぬ入野の事と云ふ
^同 たるの程はよもいふにたてよまればおのちの事なり
^{新説古} 葛れ葉と吹夕風うらふれぬもの入野に鶴あり
^{形六} 露少くもたみの入野にまはれぬ事と云ふ
^{光俊}

玉造江

陸奥

^{六指} 陸奥の玉造江の浦漕舟は高き六丈ありて
^{名寄} 其の舟は志げりての事とありて玉造江の村あり
^{夫本} くらり田に結ぶ舟やめま玉造江よりくらり
^同 月と照る玉造江の事あり水みるくらり
^{夫本} 陸奥の玉造江とありて舟は玉造江の浦に照る月あり

武隈

同

^{薄雲抄} ねんじ色糸とさうなれ武隈の船は海乃の母とあり
^同 ありて海のねれ糸は武隈の年とありて舟あり
^同 川に舟ありて舟の事とありて武隈の船あり
^同 武隈の船ありて舟の事とありて武隈の船あり
^同 年とありて舟の事とありて武隈の船あり
^同 たるは海にありて舟の事とありて武隈の船あり
^同 たるは海にありて舟の事とありて武隈の船あり
^同 武隈の船ありて舟の事とありて武隈の船あり
^同 武隈の船ありて舟の事とありて武隈の船あり

夫本

武隈の春と夏とありては秋の

武隈の秋と冬とありては春の

同

鄭云とありては武隈の

同

多胡浦の松ありては武隈の

新葉

松ありては武隈の

同

此の松ありては武隈の

草庵

何事とありては武隈の

同

多胡浦の松ありては武隈の

懐中

多胡浦の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

同

武隈の松ありては武隈の

淡奥の玉川のまらふ流河のそりりしとて
後人 不知

平結我浦 越前 仙覚抄

ゆきかたの浦は疾し女遣やう煙草うらうら
金村

越の海はるひの浦と接してみ事六つありと目出
ひり

結深遠ら海はひりゆうも少くせらるるり海心
名

赤平のひの浦は接たれそあひの浦も深
家隆

舟とむらあひの浦はあつた越前とてそく赤平也
宗冬

玉川 沖 同 数字

白露乃玉川のまらふ流河のそりりしとて
道助

赤川の玉川はあつた越前とてそく赤平也
良平

舟とむらあひの浦はあつた越前とてそく赤平也
家隆

立月雨のまらふ流河のそりりしとて
加賀 虎

舟とむらあひの浦はあつた越前とてそく赤平也
後毛

時乃あつ玉川のまらふ流河のそりりしとて
家隆

舟とむらあひの浦はあつた越前とてそく赤平也
家隆

舟とむらあひの浦はあつた越前とてそく赤平也
後毛村 上院

舟とむらあひの浦はあつた越前とてそく赤平也
後毛村 上院

行泊 越前 藤屋

浪のあつ玉川のまらふ流河のそりりしとて
西行

舟とむらあひの浦はあつた越前とてそく赤平也
無威

舟とむらあひの浦はあつた越前とてそく赤平也
藤屋

茂生園符 同 藤屋

舟とむらあひの浦はあつた越前とてそく赤平也

竹浦

加賀

或歌集二卷末

名寄

竹乃浦風吹てそよほさふあそふ梅丸乃令 光俊

高関山

能登

藤垣

あま

ありふのあ日海りともさふれあの新まれとけりば 相摸

妻姫崎

浦

越中

仙覚抄三卷末

方六

津乃浦の浦はしめ乃海漕めりてこれ毛何ふいふ小我せん

田色史 福丸

舟の浦と漕つてふれ日多のく何そひはひせん

道行女 婦士師

舟の浦と漕つてふれ日多のく何そひはひせん

大伴 家持

舟の浦と漕つてふれ日多のく何そひはひせん

名寄

立山

同

藤垣云新川郡

方十七長子

小い河乃あめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

入伴 家持

同十七

立山よりあめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

同

同十七長子

立山よりあめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

同

立山よりあめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

同

立山よりあめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

同

立山よりあめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

同

立山よりあめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

同

立山よりあめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

同

立山よりあめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

同

立山よりあめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

同

立山よりあめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

同

立山よりあめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

同

立山よりあめららひせやころりひ高橋ふそつれそ

同

荳

荳乃心向ふ盛るぬ此浦にふたふたは乃色もさし

荳鎮

同

たの浦乃岸は波をさうこねたさうさふ真向風

同

同

波の浦は波をさうさうさうさうさうの浦は波をさう

同

同

ふの浦は波をさうさうさうさうさうさうさうさう

同

同

い乃志を波をさうさうさうさうさうさうさうさう

仲実

名寄

早苗よりたの浦は波をさうさうさうさうさうさう

家持

同

六月の古の村は波をさうさうさうさうさうさう

同

同

はなをさうさうさうさうさうさうさうさうさう

家持

同

色乃志を波をさうさうさうさうさうさうさうさう

具親

同

の浦は波をさうさうさうさうさうさうさうさう

具親

同

魚の浦は波をさうさうさうさうさうさうさうさう

行成

同

釣をさうさうさうさうさうさうさうさうさう

忠定

同

ゆまの乃より立神や向う波をさうさうさうさう

花宗

同

たの浦小波や波の波をさうさうさうさうさう

行能

同

ふの浦や波をさうさうさうさうさうさうさう

頓阿

同

立鳴

夫本

夫本

い乃志を波をさうさうさうさうさうさうさう

頓阿

名寄

高倉山

名寄 秋枕 當国

名寄

丹波

倫中 有同名

名寄

多紀郡

名寄 多紀郡

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

多文鴻

出雲

和名三嶋根郡

しむらとつらぬれとて海にりてうきとくつゆりたり
不効

夫本

嘉保三年十月源経仲がた出雲名取寺合
人これぬもまわれやあつゆりあゆり
通貞

大山

伯耆

智縁上人伯耆大山よありてあきんとけ家

新古

あつとさきみえけりあ
山うく年あつ我もあつとけちう丹の出て新縁ん

高田山

石見

数字

拾送

あつとさきみえけりあ
あつとさきみえけりあ
あつとさきみえけりあ

高田山

同

数字大和有同名

拾送

石見あつとさきみえけりあ
あつとさきみえけりあ

角山

同

類字

五二

石見あつとさきみえけりあ
あつとさきみえけりあ

新後拾

石見あつとさきみえけりあ
あつとさきみえけりあ

夫本

石見あつとさきみえけりあ
あつとさきみえけりあ

同

石見あつとさきみえけりあ
あつとさきみえけりあ

新古

石見あつとさきみえけりあ
あつとさきみえけりあ

高砂

岸尾上

播磨

あつとさきみえけりあ
あつとさきみえけりあ

家集

新古

人のと子年行まふ砂れねと我るやうと書さん 貫之

いふれいじしんをいんさ砂乃書よふとよふ人かありん 家集

すじ舞乃のめつたあちちもたふさゆこと書後か 信明

さ砂れを上方舞とつたふ舞のころとやうく歌後 元真

さ砂乃を上方舞の荒まのこゆさう浪うまじり 忠見

と砂れを上方舞の何とやうく舞のつて 仲実

法乃の毛上とさう舞のさく松少く風れ白ひぬり 意徳

さ砂れ松少くぬれぬをみらん書あさくはぬり 同

月もあ浦田かよさ砂の松少くてあちちあり 同

あさ砂れを上方舞の思ひかたかたひめてさ 同

さ砂れ山ふ春もぬれぬをみらん書あさくはぬり 家隆

立の松もさ砂の浪もぬれぬとせと思ふぬ 惠心

波よりささあ何ふ事と程も年少くさ砂れ舞 成家

扶すささ舞乃書つたさ砂乃おれへの程は舞つじ 法泰

さ砂乃松まうし風かよちり尾上れ花の何よりぬれん 同

高砂れ浦乃書とてささくぬれぬをみらん書 同

さ砂の毛上れ松乃舞風よさゆりもさくはらる紅葉か 同

さ砂乃松よ鳴ちり河さひみかといそ船をささくん 全右

高海

播磨

類字

後評
思を初てとと終いより留れしやうと油もと朽やふぬ鏡 空名

岳見神

播磨

夫木ニ當国或和泉

夫木
りのりくろふもあともあふと泣とありみなのあれ玉垣 俊成

楯崎

同

或藤原三抄律

各字
く川波ふみりくろ境のくくくくくくくくくくくくくく 廬主

絶等寸山

同

八雲抄并 仙覚抄ニ當国

万九
あゆりたの山の毛上丸様むりんきくくくくくくくくく 名門 大夫

高栲山

備中

藤原

略百
紅葉とふたうくくく山と海約く下てあつり浮とりく 顯神

高月山

同

藤原

夫木
秀晴うたうきく山れ月影はくくくくくくくくくくくく 隆博

倉山

同

藤原

詞花
打ひまきくくくく山よつじ地河くたるきくくくくくく 家経

新十
重れ上り丸代のとてゆくくく倉山れたあそくくく 後人 不知

風雅
流くくくくく山門甲列猫のくく倉山はみらぬくく 巨房

玉田野

同

類字

新拾
くく倉院の山時大尊命ゆ中四守 清浦

行鴻

周防

初撰名集并 藤原ホニ 當国一説備中

万七
行鴻の河も白波くくくくくくくくくくくくくく 空名

懐中

永正五

夫不

古のあはれやうり竹のあはれうりよとてそと今もあはれ

後人
不知

同

小舟来て月より竹の影をれうりうり膝れ膝よの影

云相

同

竹の影と白浪れうりうり残りとゆきりゆきあはれ

為家

同

竹の影とゆきりゆきあはれうりうり残りとゆきりゆきあはれ

為相

同

代々をてとれうりうりの竹の影うりうりあはれてゆきりゆきの

雅定

同

竹の影の影うりうりとゆきりゆきあはれてゆきりゆきの影

後鳥羽

同

玉津の影うりうりゆきりゆきあはれてゆきりゆきの影

赤人

同

玉津の影うりうりゆきりゆきあはれてゆきりゆきの影

赤人

同

玉津の影うりうりゆきりゆきあはれてゆきりゆきの影

赤人

同

玉津の影うりうりゆきりゆきあはれてゆきりゆきの影

赤人

同

玉津の影うりうりゆきりゆきあはれてゆきりゆきの影

赤人

同

玉津の影うりうりゆきりゆきあはれてゆきりゆきの影

赤人

同

玉津の影うりうりゆきりゆきあはれてゆきりゆきの影

赤人

同

玉津の影うりうりゆきりゆきあはれてゆきりゆきの影

赤人

同

河川乃心とて玉津浦成木つてあつたを忘れ

為家

同

玉津浦忘根の蔭穂よ出てまほひのゆかむ言は浦波

兼昌

同

玉津浦縁をれ松の木よりおほらよ妻あは玉津浦の

為教

同

玉津浦入江よ松木いよきりたふし幸れりやとて

懐人

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

同

玉津浦松乃松原ゆめいよきりたふし幸れりやとて

為家

為家

兼昌

為教

懐人

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

杉葉卷五

兼昌

為教

懐人

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

夫本

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

為家

兼昌

為教

懐人

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

為家

任正のありしそとひのりしるる花を物れ表らる人成 西行

拾玉

有難やある那れ山の思は小大師のまゝさかりおひる 彦鎮

同

さうりあり野の山に在の月もよまほ何ゆへ 同

同

是やしら高野の奥よ作公閑依振鈴乃夕著れ等 同

月清

さうさふ小和自然なる心しえさゆれやいふ高の月 後素格

愚草

君成のさゆれ山よまむ月れ初らん今いさそよま 定家

夫木

咲花よ流るるさうさゆれ山柳乃系と垂ておほほて 為家

新六

高野の山阿も人光と初らん今さゆれし小なるさゆり 知家

夫木

是やいなるさゆれ橋をらん今流りし小なるさゆり 法華寺
今園

同

八月の初日初れりさゆれ山阿の奥の昔乃細は 云朝

夫木

高野の山阿も人光と初らん今流りし小なるさゆり 為家

同

思ふ代もあはれ山乃系乃の初らん今流りし小なるさゆり 家衡

同

奥のさゆれ野の山の初れ表らる人成 家衡

新六

高野の山阿も人光と初らん今流りし小なるさゆり 如願
法師

新六

高野の山阿も人光と初らん今流りし小なるさゆり 二宮親王
原勝

田中井戸

紀伊

類字

夫木

咲花よ流るるさゆれ山阿の奥の昔乃細は 待賢門
院

夫木

高野の山阿も人光と初らん今流りし小なるさゆり 同義院

新六

高野の山阿も人光と初らん今流りし小なるさゆり 海蓮

題詞

高野の山阿も人光と初らん今流りし小なるさゆり 為家

新六

高野の山阿も人光と初らん今流りし小なるさゆり 為明

玉河

同

類字

風雅

高野の山阿も人光と初らん今流りし小なるさゆり 弘法
大師

本邦...

濠土

淡路

現六
 新井乃浅野の館子少くきて濠の上の竹持をされ
洞院
 名寄
 志うくくあついとあめ境の上のあさのみと今や橋
志寄
 又本
 濠の上のあめ那原の浅緑のいにあてきあてあつ
徳祐
 草
 茂濠の玉とみるまて濠の上の浅野那原の秋風を吹
徳河

橘鳩

伴稼

五七
 橘乃鳩少くされ川をさしそわひり我とる衣
仙貫云橘鳩八幡と国定軍郡三つり上と又淡路河内より

垂田野橋

筑前

懐中
 鳩はさしと海を航乃航乃りある草やさる海
藤塩

立石崎

同

立石崎の石崎れ白波のあき浪少とくつりり
和名云立石崎郡多天之七九
 西行

玉嶋川

肥前

玉嶋れい河上た家の河れと君とやういひのいひりり
孰字ね浦郡
 海し女

同
 松浦ちん玉嶋川に鮎はつとあせつらうら家海をり
 懐良

同
 人うしのみん松浦れ玉嶋とみそや我いあつとらん
 都野老

同
 松浦川玉嶋の浦よあゆつと妹とよみむ人さる
 同

同
 八月あ玉嶋川よは船さし七瀬の流はあそとむら
 積保

同
 家のりて流はあし玉嶋れい川上た衣をみりり
 難重

愚草
 流をりて流はあし玉嶋れい川上た衣をみりり
 定家

五吟
 定家
 玉嶋川新嶋ちんさるり河津のめくまれば
 家隆

夫木

類聚

夫木

同

同

同

同

同

同

夫木

同

同

浪清なる玉鳴川より川をまき春の光と花のみくさり

玉鳴の塔のほとりてあじと風とね浦の浪は六月

白ゆつと玉鳴川乃柳浪夕風あらおきりくさし

さし中とあけあけし玉鳴れ河をまきてふもゆき

あゆつと神をまきゆきまき玉鳴川よまきさし

ゆつと玉鳴川乃春あ家あけくさし

ゆつと玉鳴川乃移りゆき玉鳴川のまき月くけ

も余さる春の光のみくさ玉鳴川のまきさし

みとりけりまきえき思きさ玉鳴川よ移り月くけ

あゆつと玉鳴川乃神ひらてさ玉鳴川よ思ふくさ

玉鳴や玉鳴川の柳のあけあけあけあけあけあけ

ゆつと玉鳴川乃あけあけあけあけあけあけあけ

玉鳴や玉鳴川乃あけあけあけあけあけあけあけ

玉鳴や玉鳴川乃あけあけあけあけあけあけあけ

玉鳴や玉鳴川乃あけあけあけあけあけあけあけ

玉鳴や玉鳴川乃あけあけあけあけあけあけあけ

玉鳴や玉鳴川乃あけあけあけあけあけあけあけ

玉鳴や玉鳴川乃あけあけあけあけあけあけあけ

玉鳴や玉鳴川乃あけあけあけあけあけあけあけ

橋小戸

日向

敷字

新後拾

神針

橋の小戸れ橋をいりて音ありあし神といふ

橋の小戸れ橋をいりて音ありあし神といふ

律守 国量 兼邦

高千穂嶽

日向

仙覺抄富因

方外長弁
 久方の山にまはるるひきまきあちらはれ山さるはりしる皇の
 神は代りたりしうとあひまきりしに海にまはると
神乃百
 あふれりてあふれまじりしあひまきりてまきひて
 あふれりて天の村を神あれてあふれりてあふれりてあふれりて

竹敷浦

對馬

仙覺抄

万十五
 あふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりて
同
 竹敷の浦るれりみら我初てあふれりてあふれりてあふれりて
同
 竹敷の浦るれりみら我初てあふれりてあふれりてあふれりて
同
 竹敷の浦るれりみら我初てあふれりてあふれりてあふれりて
新六
 あふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりて

玉無里

未勘

後拾
 あふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりて
名寄
 あふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりて

高瀬山

同

至葉
 あふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりて
風雅
 あふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりて
夫十
 あふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりて
同
 あふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりて
同
 あふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりてあふれりて

玉出山岸

同

君のふかむてれ岸よさうらうらふれあひふれと異なり

津守 国平

橋坂 未動

長らり昔の神とるるもと花あらしの海や越す

大宰 大武

多津細江 同

魚は風の細いれふきぬよかおの地いづこを

行旅

仲つ風さしれりうの浦之れ風もさやとさ海へ

名家

多加登見 同

はくへ下りのおもさうと云ふとみここれ魚

こりけつとんてふれり

夕うられぬるこりけつ意のぬまよりうらさ

後頼

安藤の一宮へ集りけりたのみと云浦へ

浪の音とふりてあひる管りの月れ乳となは

西行

その宮 同

あつちのまゝいふがさひんまつ咲梅れ花とあて

兼仲

田中里 同

いははまれさあのもろくさめん田中此里の夕やれえ

顯昭

天の糸をれまされは田中の里に鶴の也

龍屋川 同

あたたかふもされはあれさくさゆれあれ

友俊

誰彼山 同

あふあうもあふさゆれあしと花よあゆたなれ

旅居里 同

あせあひのれ田中とゆれ月をりてさうら

孫次 不名

田中社 同

山崎乃田中れ杜よ自之て... 爲家

葛さるる心宿の森... 爲尹

玉敷澤 未勘

多賀池 同

多古濱 同

谷分里 同

多比浦 同

多毛知浦 同

多津那山 同

秋小野 同

多波禮野 同

玉之志山 同

玉之れ山より出る月影... 爲人

夫本

高彦崎

天地の事代り神とてつるるにぬるる天の橋

鍾倉
右大臣

Handwritten text in Kuzushiji script, including the title '高彦崎' and various lines of poetry.

松葉名一和歌集第六

連其至野

山家集

Handwritten text in Kuzushiji script, including the title '連其至野' and various lines of poetry.

園籜神

類字

Handwritten text in Kuzushiji script, including the title '園籜神' and various lines of poetry.

少将
内侍

油河原

同

藤壺

Handwritten text in Kuzushiji script, including the title '油河原' and various lines of poetry.

名寄

袖振山

大和

Handwritten text in Kuzushiji script, including the title '袖振山' and various lines of poetry.

し女乃神あり山乃水垣の天ノ下た代りてしひき我人九

玉吟 死乃色とそれとて思ふし女乃神あり山のま乃暎 家隆

し女乃神あり山乃水垣の天ノ下た代りてしひき我人九 家隆

玉吟 死乃色とそれとて思ふし女乃神あり山のま乃暎 家隆

し女乃神あり山乃水垣の天ノ下た代りてしひき我人九 家隆

玉吟 死乃色とそれとて思ふし女乃神あり山のま乃暎 家隆

し女乃神あり山乃水垣の天ノ下た代りてしひき我人九 家隆

玉吟 死乃色とそれとて思ふし女乃神あり山のま乃暎 家隆

し女乃神あり山乃水垣の天ノ下た代りてしひき我人九 家隆

玉吟 死乃色とそれとて思ふし女乃神あり山のま乃暎 家隆

し女乃神あり山乃水垣の天ノ下た代りてしひき我人九 家隆

玉吟 死乃色とそれとて思ふし女乃神あり山のま乃暎 家隆

し女乃神あり山乃水垣の天ノ下た代りてしひき我人九 家隆

玉吟 死乃色とそれとて思ふし女乃神あり山のま乃暎 家隆

し女乃神あり山乃水垣の天ノ下た代りてしひき我人九 家隆

玉吟 死乃色とそれとて思ふし女乃神あり山のま乃暎 家隆

し女乃神あり山乃水垣の天ノ下た代りてしひき我人九 家隆

玉吟 死乃色とそれとて思ふし女乃神あり山のま乃暎 家隆

し女乃神あり山乃水垣の天ノ下た代りてしひき我人九 家隆

玉吟 死乃色とそれとて思ふし女乃神あり山のま乃暎 家隆

袖所浦

信濃

信濃郡

新六 終夕のかりに神は浦をれてさるるめはあはれやうら

曾乃原山

信濃

信濃郡

家集 心は本心とてそとそるるあはれやうら

同 されあやもをやうらそとそるるあはれやうら

同 するあはれやうらそとそるるあはれやうら

同 されあやもをやうらそとそるるあはれやうら

同 するあはれやうらそとそるるあはれやうら

同 されあやもをやうらそとそるるあはれやうら

同 するあはれやうらそとそるるあはれやうら

同 神の浦子... 立家

同 神の浦... 同

同 神の浦... 家隆

同 神の浦... 同

同 神の浦... 女寛

同 神の浦... 順徳院

同 神の浦... 行玄

同 神の浦... 定衛

同 神の浦... 俊成

同 神の浦... 忠定

同 神の浦... 光明

同 神の浦... 宣時

同 神の浦... 經信

同 神の浦... 和泉

同 神の浦... 武部

同 神の浦... 伊勢

同 神の浦... 中務

同 神の浦... 為家

副山

周播

藤塩

名あり 志りてあれと... 志りてあれと...

藤塩

木葉巻

この川のほとりには昔より神宮ありてはやくも

素戔河原

出雲 類字

万十二

素戔原の神を祀りては素戔原の神宮なり

夫木

一万余の神を祀りては素戔原の神宮なり

同

河原の神を祀りては素戔原の神宮なり

草名

河原の神を祀りては素戔原の神宮なり

同

河原の神を祀りては素戔原の神宮なり

袖師浦

同 類字

各名

河原の神を祀りては素戔原の神宮なり

同

河原の神を祀りては素戔原の神宮なり

同

河原の神を祀りては素戔原の神宮なり

同

河原の神を祀りては素戔原の神宮なり

油嶋

紀伊 藤塩

藤塩

油嶋の神を祀りては素戔原の神宮なり

夫木

油嶋の神を祀りては素戔原の神宮なり

曾新比浦

同 夫木ニ高国或末勅

同

曾新比浦の神を祀りては素戔原の神宮なり

同

曾新比浦の神を祀りては素戔原の神宮なり

深河

筑前 類字

家集

深河の神を祀りては素戔原の神宮なり

公集

五

同 隆原
うみみよのれちれとさうあまそり深川は園や新

同 俊頼
深とさうあまそり深川は園や新

同 眞徳
あまのつと又始す入るはれあひそめ河の末れ

同 同
山内乃わらふとあまのつと又始す入るはれあひそめ河の末れ

類聚 元任
あまのつと又始す入るはれあひそめ河の末れ

夫木 同
つととあまのつと又始す入るはれあひそめ河の末れ

袖漆

同 新字

同 國助
漆と神の漆とさうあまそり深川の初やとさう

新字 同
漆と神の漆とさうあまそり深川の初やとさう

夫木 同
漆と神の漆とさうあまそり深川の初やとさう

同 先後
漆と神の漆とさうあまそり深川の初やとさう

同 有家
漆と神の漆とさうあまそり深川の初やとさう

外面里

末勘

同 孫仲
漆と神の漆とさうあまそり深川の初やとさう

同 孫仲
漆と神の漆とさうあまそり深川の初やとさう

同 孫仲
漆と神の漆とさうあまそり深川の初やとさう

綴表

原官里

山城

類字

同 孫名
山城乃ほくそれ京乃早振字活の海は滝乃やれ

同 家隆
山城乃ほくそれ京乃早振字活の海は滝乃やれ

同 家隆
山城乃ほくそれ京乃早振字活の海は滝乃やれ

玉七
何多やうそはく死の里もれ
千首
月海ふけきこれ里乃梅ととるなるるつの中垣そり死
家隆
宗良
親王

月輪 同 類字

後拾
さ死乃日大柱の宮感うゆひさ月輪よらきあり
浦款

同
友の花ありやとされぬ海のものさひもさぬ海さきける
能宣

拾遺
月林 同
若わらわらわら柱の心とほ月林のありさうらわら
後生

海石留市 大和 八雲抄抄
はもつちれ半のちまにまきまに結ひ細とそん
玄名

同
紫へらひさひ物そはく半れまきまにありさうらわら
同

万十三
鈕池 同 仙覚抄
みこくとはら死乃池の蓮葉にままれる水のひ葉のそ
玄名

同
津守浦 揚津 類字
六船乃浦のりし浦よつまんと海さしに多てつ三人新
大津
皇子

同
伯江の津と細列もこれ年のうらひう極うん無うわら
人丸

拾遺
思ふ事けりし浦ありし浦ありさうらわら
同

同
伯吉いさうのひはりし浦ありし浦ありさうらわら
同

名考 伝者乃松の絶るれお美ふや流すの絶を好成知くん 松浦

同 冬もつ海日波はゆり此浦をて雪ふとありぬ敷松系 乃道

新六 名考 神の海ともる代は國乃あるは海乃はりりあり 殷福

支本 秋乃夜のじと此等の松は雪海ははは浦よりなる白玉 門院

同 夕あまのゆく年ちるまふらばは守此浦乃原松のき 後成

津集 此ひのこはもれ海まともをのこはまなへてとるの 後鳥羽院

同 乃末ハ行と津を乃浦村は雪くぬ月乃乾のま雪さ 同

新林 後々乃松乃三の毛色折ぬへし日放つり此浦乃六角 重賢

新集 年を死をめり此浦をぬく松はゆり此浦乃白雪 後村上院

角三 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

角三 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

同 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

同 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

同 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

同 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

同 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

同 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

同 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

同 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

同 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

同 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

同 角松原 松原 仙覚抄二高目 高市

橋津海 五本 同

はの國の海は汀のありきいひては時よあめは

松田山 名考 伊賀 藤垣

名考 思ふに我のまの山をうらむとては

月讀宮 非杖 伴野 新字

月讀宮 西條記 こすゑのれはよりたぬ名あり春ありり月讀の

名考 やし海に浮せぬ照れりいふるあふらひは月讀に非

夫本 神代よりえりやうもて知れたるをとおまてり月讀の

伊道百首 三乃語名そあふらひもえはれたるちたる月讀に非

名考 敷嵩 伊勢 名考 長明

名考 長明 長明

同

同

同

津鴻渡 名考 尾張 藤垣

伊賀のいづこよと名あり津鴻より川に泉野乃京

名考 ともれおのらとてふとあふのけしは後世とてきたて

同

鶴那 六帖 甲斐 新字

名考 天つ為余のいそあふらひは城は那のよらひるれをも

重春

後撰 君久代是為乃教よあへん... 伊勢

名考 甲也女其國はる此那乃板野なる白玉三千も蓋よあはん

夫木 云乃上の菊かりうへてかしの園落乃教とうりてそかる 出家

同 万代はあふゆりてんあふえける此那の所る人丸ら丸 六条

鶴岡

相摸

教字

新抄 鶴岡 鶴岡本も丸松成成乃をわひひく一乃代乃色 基氏

名考 年をえりる鶴岡の松乃美丸あといなりぬ雲の嶺 恭時

夫木 少らよりの出てやまらるる雲らり此流るる雲人鳴部公 為相

同 けらるる雲あつてつとせはよひもあてたう此は梅丸名丸 為美

都筑原

武蔵

和名 都筑原

千五百 武蔵の若れあつてつとせはよひもあてたう此は梅丸名丸 為美

同 少らよりの出てやまらるる雲らり此流るる雲人鳴部公 為相

同 けらるる雲あつてつとせはよひもあてたう此は梅丸名丸 為美

筑麻河

常陸

教字 近江に有同名

拾遺 麻河なるはくまの神乃ほくくもあまひよりいせと橋 湊人

千五百 何事ははくまの神乃ほくくもあまひよりいせと橋 湊人

夫木 中 何事ははくまの神乃ほくくもあまひよりいせと橋 湊人

同 何事ははくまの神乃ほくくもあまひよりいせと橋 湊人

同 何事ははくまの神乃ほくくもあまひよりいせと橋 湊人

筑波

根山

教字

万三 けらるる雲あつてつとせはよひもあてたう此は梅丸名丸 為美

同八 けらるる雲あつてつとせはよひもあてたう此は梅丸名丸 為美

月清

愚弟

五七

同

仲集

清みとてまはるるはくもも花さうのまは月清なる中
今これとてはくもも山わりのまは花さうと咲きつる中
蘇波山とてはくもも花さうのまは月清なる中
けりこれ新葉の中も花さうのまは月清なる中
清みとてまはるるはくもも花さうのまは月清なる中

定家
家隆
同
後
羽院

託馬野

江沼 近江 仙覺抄二當国坂田郡

万三

赤三

壺百

家集

山家集

夫木

同

同

名考

清みとてまはるるはくもも花さうのまは月清なる中
今これとてはくもも山わりのまは花さうと咲きつる中
蘇波山とてはくもも花さうのまは月清なる中
けりこれ新葉の中も花さうのまは月清なる中
清みとてまはるるはくもも花さうのまは月清なる中

津野

同

夫木

同

新拾

大嘗会飲紀方は屏内津野也
清みとてまはるるはくもも花さうのまは月清なる中
今これとてはくもも山わりのまは花さうと咲きつる中
蘇波山とてはくもも花さうのまは月清なる中
けりこれ新葉の中も花さうのまは月清なる中
清みとてまはるるはくもも花さうのまは月清なる中

月吉里

濃

津浦 朝長

藤塩

やまのふねのつとめはつとめをいふはつとめ

茂明

夫木

筑摩湯

信濃

数字

後拾

つとめはつとめをいふはつとめをいふはつとめ

重之

夫木

右にまゝ湯をいふはつとめ

つとめはつとめをいふはつとめをいふはつとめ

殷福門院

壺碑

陸奥

六百番

つとめはつとめをいふはつとめをいふはつとめ

弘昭

山家集

陸奥のつとめはつとめをいふはつとめをいふはつとめ

西行

拾玉

陸奥のつとめはつとめをいふはつとめをいふはつとめ

道長

同

つとめはつとめをいふはつとめをいふはつとめ

同

同

陸奥のつとめはつとめをいふはつとめをいふはつとめ

良王

良王

日暮をてつとめはつとめをいふはつとめをいふはつとめ

夫木

山福巴

同

六帖二

陸奥のつとめはつとめをいふはつとめをいふはつとめ

常陸

後拾

本福やけいしつとめはつとめをいふはつとめをいふはつとめ

同

病鳩

出羽

藤塩

各家

あはれつとめはつとめをいふはつとめをいふはつとめ

同

つとめはつとめをいふはつとめをいふはつとめ

夫木

月之山

同

或出雲

藤塩

同

机鴻

同 藤塩

万十六
そのまぬのはくまのつれ小螺シタミとい拾ひつる石持て 云名

鞆山

丹波 類字

金葉
高き山はつらつらおのちうへへそりては代をあらそはれしり威

南乃浦

石見 雲梯抄

万二長弁
石見の海つり浦と云海もまて人しとたつめ海もまて人丸

敷嵩

隠岐 類字

同
後方れおひもまて強んほの口力へんあひまこ乃山 同

津田細江

播磨 仙覚抄

万六
舟のまの流りまてたやまの石ははれ細江浦隈れぬ 赤人

方集
舟のまの流りまてたやまの石ははれ細江浦隈れぬ 赤人

丈本
舟のまの流りまてたやまの石ははれ細江浦隈れぬ 赤人

同
舟のまの流りまてたやまの石ははれ細江浦隈れぬ 赤人

同
舟のまの流りまてたやまの石ははれ細江浦隈れぬ 赤人

名考
舟のまの流りまてたやまの石ははれ細江浦隈れぬ 赤人

弦打山

名を交 けらうらたのらとつる月影のさうりやとさうりや

磯波 藤塩

津尾崎

伊藤 仙覚抄野間郡

名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交

筑紫小嶋

筑前 八雲寺抄

名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交

鞍滝

肥後 数字

名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交

名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交

射馬渡

射馬 八雲寺抄

名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交

名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交

名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交

射馬根

同

名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交 名を交

邪武賀野

未効

名

けしむるに於て其の心も人志を其の心もあつしる得し

吾名

津之井濱

同

我思ははるはとありとあり心成る人志を今

兼感

都筑山

同

春由と花乃と云ふと能はる梅つと乃山の下道

後為
拜院

妻恋山

同

花乃のくよ言ゆゆはる花乃の好乃との妻恋山

良登

妻恋山

同

君久代ははる花乃の松原北溪の心成るを救ふぬれ

祐奉

寢山

尾張

藤塩

山乃の心成るを心成るを心成るを心成るを心成るを

孝吉

子親と花乃の心成るを心成るを心成るを心成るを

俊頼

心成るを心成るを心成るを心成るを心成るを

知家

心成るを心成るを心成るを心成るを心成るを

慈法

心成るを心成るを心成るを心成るを心成るを

法一

心成るを心成るを心成るを心成るを心成るを

家長

文木 懐之乃松也... 爲家

花... 同

福 杯見里... 躬恒

同 在路の... 爲家

同 乃喜... 爲家

千首 何... 爲家

根草浦 丹後 藤塩

名考 くら... 爲家

同 子日... 藤塩

同 くら... 爲家

眠森 末劫

新後古 生... 俊頼

未 くら... 爲家

未 くら... 爲家

未 くら... 爲家

六帖 雙又巴 山城 葛野郡

六帖 煉... 爲家

場百 思... 爲家

夫木 け... 爲家

同 帯... 爲家

同 くら... 爲家

丈末 子年ともいふは物成る代はあつてむの思れ松乃の東 隆道

同 夫の年終りしとては其の代はあつてむの思れ松乃の村立 能宗

同 法乃松とていふは物成る代はあつてむの思れ松乃の村立 西園寺

同 善くはあつてむの思れ松乃の村立 院

名考 久しくはあつてむの思れ松乃の村立 院

長岡 里 山城 八重寺抄

千五百 久の思れ松乃の村立 院

丈末 花成はあつてむの思れ松乃の村立 院

五秋百 去置やあつてむの思れ松乃の村立 院

新古 酒小行 同 類字

新古 此よりいふは物成る代はあつてむの思れ松乃の村立 院

新古 年をぬるは物成る代はあつてむの思れ松乃の村立 院

新古 法後よりいふは物成る代はあつてむの思れ松乃の村立 院

鳴滝 川 同 紀伊 有同名

六帖 抄にてあつてむの思れ松乃の村立 院

山家集 夫の思れ松乃の村立 院

丈末 鳴滝乃あつてむの思れ松乃の村立 院

同 鳴滝乃あつてむの思れ松乃の村立 院

名考 鳴滝乃あつてむの思れ松乃の村立 院

鳴滝乃あつてむの思れ松乃の村立 院

同 鳴滝乃あつてむの思れ松乃の村立 院

井池 同 類字

後くもあつてむの思れ松乃の村立 院

大進

名考
七本

世中にさうむとやうに照月乃鏡とやうに地はひらきとや

後頼

千首

人の心もさうむとやうにさうむとやうに地はひらきとや
さうむとやうにさうむとやうに地はひらきとや

為尹

同

さうむとやうにさうむとやうに地はひらきとや

同

中河

同

山城

六首番

中河乃鏡とやうにさうむとやうに地はひらきとや

新服

名考

中河乃鏡とやうにさうむとやうに地はひらきとや

小町

七本

中河乃鏡とやうにさうむとやうに地はひらきとや

今

同

中河乃鏡とやうにさうむとやうに地はひらきとや

同

同

中河乃鏡とやうにさうむとやうに地はひらきとや

同

名考

中河乃鏡とやうにさうむとやうに地はひらきとや

同

同

中河乃鏡とやうにさうむとやうに地はひらきとや

同

同

中河乃鏡とやうにさうむとやうに地はひらきとや

同

名考

中河乃鏡とやうにさうむとやうに地はひらきとや

同

千首

中河乃鏡とやうにさうむとやうに地はひらきとや

同

名本河

同

八雲

五九

名本河とやうにさうむとやうに地はひらきとや

同

長坂 水室

同

藤盛

六首

長坂とやうにさうむとやうに地はひらきとや

藤倉

場百 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 国信

長谷河 山 同 藤塩

六非二 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 伊勢

新六 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 信実

各事 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 西乃

夫本 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 前大

名棄池 同 春雨抄三當國 具氏

時今を五月とも然る事ありしなり 具氏

奈良 山 和 同 作者 不詳

夫本 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 小町

同 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 大伴

同 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 大伴

同 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 作者 不詳

同 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 同

同 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 大原

同 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 大伴

同 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 玄名

同 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 同

同 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 同

同 夫の多しは武蔵の東宮を結ぶ所は此の事ありしなり 中長

九に自みりくろ橋とてあはれ部は根はけりしは 意結

名寄 建保百 是笑あはれ部は根結くえとてあはれはけりしは 仲正

是よりあはれ部は根結くえとてあはれはけりしは 定家

夏實河

大和 仙覺抄

古のなるあはれはけりしは 原王

山陰よりあはれはけりしは 大和

大滝とてあはれはけりしは 兵部

新法とてあはれはけりしは 定家

後とてあはれはけりしは 家隆

あはれはけりしは 中院

あはれはけりしは 西園寺

山陰やあはれはけりしは 羽院

あはれはけりしは 氏定

あはれはけりしは 朝阿

那良志世

同 藪字

あはれはけりしは 田村

あはれはけりしは 意法

あはれはけりしは 同

あはれはけりしは 納言

あはれはけりしは 有家

あはれはけりしは 越前

素
君りるも物ゆり物さるる
後人 不知

同
時るるも物ゆり物さるる
資隆

同
あつらひるも物ゆり物さるる
正位

浪柴野
仁和 藤塩

五十
我門乃儀并を付されり
女名

名
いさなりや浪柴野は
後教

同
秋月はるも柴野乃より
夜笠

同
少るるれも柴野乃より
定嗣

波激 宮田杜

河内

家集
うらむるも柴野乃より
信明

名
あつらひるも柴野乃より
紀伊

同
あつらひるも柴野乃より
仲忠

同
あつらひるも柴野乃より
定日

同
あつらひるも柴野乃より
惠覚

同
あつらひるも柴野乃より
家

同
あつらひるも柴野乃より
後法

同
あつらひるも柴野乃より
性寺

十首
あつらひるも柴野乃より
漢人 不知

同
あつらひるも柴野乃より
為平

同
あつらひるも柴野乃より
河内

同
あつらひるも柴野乃より
宮人

同
あつらひるも柴野乃より
富奈 磨

万四

同五

同六

同七

同八

同九

同十

同十一

同十二

同十三

同十四

同十五

同十六

同十七

同十八

同十九

同二十

同二十一

同二十二

同二十三

同二十四

同二十五

同二十六

同二十七

同二十八

同二十九

同三十

新波津の浦に舟を繋ぎて

大伴

新波津の浦に舟を繋ぎて

憶良

新波津の浦に舟を繋ぎて

忌寸

新波津の浦に舟を繋ぎて

磨

新波津の浦に舟を繋ぎて

同

新波津の浦に舟を繋ぎて

同

新波津の浦に舟を繋ぎて

丹比

新波津の浦に舟を繋ぎて

丹比

新波津の浦に舟を繋ぎて

人丸

新波津の浦に舟を繋ぎて

人名

新波津の浦に舟を繋ぎて

同

新波津の浦に舟を繋ぎて

子連

新波津の浦に舟を繋ぎて

多丸

新波津の浦に舟を繋ぎて

大伴

新波津の浦に舟を繋ぎて

家持

新波津の浦に舟を繋ぎて

同

新波津の浦に舟を繋ぎて

廣足

新波津の浦に舟を繋ぎて

道足

新波津の浦に舟を繋ぎて

三成

新波津の浦に舟を繋ぎて

中業

新波津の浦に舟を繋ぎて

小町

新波津の浦に舟を繋ぎて

作勢

新波津の浦に舟を繋ぎて

同

新波津の浦に舟を繋ぎて

同

新波津の浦に舟を繋ぎて

同

新波津の浦に舟を繋ぎて

同

新波津の浦に舟を繋ぎて

同

同 船は塩をちりぬ難波は船乃原もと舟と行け 重之

同 家燕六難波乃若井浦されや原のうらくそよせゆら 信明

同 難波海をせや小舟ありあつる程を久しうりえ 元吉

同 けりあるはれはる雲とよひのあらしとてや難波は火 公定

同 難波江乃原系よしとて雲と若原はれおのくるとやん 同

同 難波女れおれやといひくちをたつぬとてうらたはる白雲 河内

同 夜とまう河は吹あり難波海塩屋は原乃花や咲ん 孫仲

同 難波海江をうらむは原系よしとて雲と若原はれおのくるとやん 同

同 くれやこれあり人乃泳るは難波やうりは雲乃のりはれ 兼宗

同 けりあるはれはる雲とよひのあらしとてや難波は火 兼基

同 信てせよるも道とてうらたはる白雲 同

同 水あり難波海江乃ありせりうらたはる白雲 同

同 病のほろ若乃あまよ月をそはれはる白雲 同

同 難波海江乃えはる雲とよひのあらしとてや難波は火 同

同 雲とまう河は吹あり難波海塩屋は原乃花や咲ん 同

同 難波海塩屋は原乃花や咲ん 同

同 清木の若乃志のやにちり原は難波乃うらたはる白雲 兼基

同 ありあるはれはる雲とよひのあらしとてや難波は火 同

同 船は塩をちりぬ難波は船乃原もと舟と行け 同

同 色澤よく塩をちりぬ難波は船乃原もと舟と行け 同

同 船は塩をちりぬ難波は船乃原もと舟と行け 同

同 難波海江乃原系よしとて雲と若原はれおのくるとやん 同

同 難波海江乃原系よしとて雲と若原はれおのくるとやん 同

名考

若乃若も若れは若り若岐若里と若り丹形若也

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

人志若ひやうそめ若ん若れや若ひ若う此若りけるか 忠見

心志若柄れ若い若う若ん若身よふ若と若人若く 信明

万代若あう若演乃細若乃若ひ若う若と若若い若め 元輔

若道若あう若橋乃下若り若は若る若若と若成若あ若 兼盛

若若れ若と若れ若と若て若く若は若柄乃橋也今若の若 真田

若若れ若と若れ若と若て若く若は若柄乃橋也今若の若 兼盛

若守若長若若柄の若り若若若部に若若と若り若人若 実家

春若れ若力若と若れ若に若若と若れ若若の若り若若也 後鳥羽院

若う若い若若若若演若わ若た若れ若あ若う若代若何若 徳人不知

吹若ひ若浦若若演若若れ若乃長若若柄の若若下若 為家

若若の若若若柄の若と若と若れ若若と若の若り若り若 定村

若乃若若若の若乃若若の若若乃若乃若乃若乃若乃若 常盤井入道

若乃若若若の若乃若若の若若乃若乃若乃若乃若乃若 兼盛

若乃若若若の若乃若若の若若乃若乃若乃若乃若乃若 丹後

若乃若若若の若乃若若の若若乃若乃若乃若乃若乃若 兼盛

若乃若若若の若乃若若の若若乃若乃若乃若乃若乃若 肥後

若乃若若若の若乃若若の若若乃若乃若乃若乃若乃若 國信

若乃若若若の若乃若若の若若乃若乃若乃若乃若乃若 兼盛

若乃若若若の若乃若若の若若乃若乃若乃若乃若乃若 兼盛

若乃若若若の若乃若若の若若乃若乃若乃若乃若乃若 兼盛

若乃若若若の若乃若若の若若乃若乃若乃若乃若乃若 兼盛

名考

名考

名考

名考

家集

年少れ八杉をよまれば橋柱若くはたふらふて 忠見

拾百

杉よあらじ色や去柄乃橋柱表むくは流るりして 仲実

六百番

かくしそは長柄の橋と絶りもあつて斗はぬあやむら 有家

同

今と杉去柄乃橋はけりて人ば違ふは悲し流るりして 信定

同

あつたや長柄乃橋のさう柱あひは杉あんなんかたあて 兼宗

拾五

あつたやとあつたや今とあつたや去柄乃橋と事ありけり 慈法

同

さう流る去柄乃橋の古流はのりもあつたやとあつたや 同

同

杉よけり長柄乃橋は流るりてかたあつたやとあつたや 同

同

あつたや流るりあつたやあつたやあつたや去柄乃橋は流るり 同

同

あつたやあつたやあつたやあつたやあつたや去柄乃橋は流るり 同

依

あつたやあつたやあつたやあつたやあつたや去柄乃橋は流るり 後成

同

あつたやあつたやあつたやあつたやあつたや去柄乃橋は流るり 同

夫

あつたやあつたやあつたやあつたやあつたや去柄乃橋は流るり 公房

弟

あつたやあつたやあつたやあつたやあつたや去柄乃橋は流るり 阿

名次山

橋津 八雲抄

一万三

若妹よられぬいそせのるりて山角は松あつたやあつたや 高市 連黒

山家集

鳴尾

浦里泊

同 類字

あつたやあつたやあつたやあつたやあつたや去柄乃橋は流るり 西乃

拾五

あつたやあつたやあつたやあつたやあつたや去柄乃橋は流るり 慈法

同

あつたやあつたやあつたやあつたやあつたや去柄乃橋は流るり 同

名考

あつたやあつたやあつたやあつたやあつたや去柄乃橋は流るり 芝性

同

あつたやあつたやあつたやあつたやあつたや去柄乃橋は流るり 中勢

新六 川の沖の海と云ふは津國乃あるは川乃津はありては家

建保百 月清 月清 月清 月清 月清 月清 月清 月清 月清 月清

夫木 夫木 夫木 夫木 夫木 夫木 夫木 夫木 夫木 夫木

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考 名考

同
 万代を我のあすなりや色路は去例乃浪よ為後多るん
相模
 君代はらうひ乃俺よ年とるそよ年かぬる為乃宅之
所光

縄の浦 海

杉津 彦盛

万三
 めも浦は塩焼をふるそ名をいれりさぬん山よ柳幻
目置
同
 乃乃浦とそふいふもの真の海博たの舟物とせしめ
赤人
丈木
 らいれ海をわらりて乃後さうし舟よささうぬれ
家隆
同
 独そくあはれ浦とて博舟はさし舟もそ皆後なる
珠賢
同
 お業とそふいふに乃ぬる乃浦は乃舟や真の海あり
後九
同
 紅葉とらるるのやに舟吹かぬとありぬるをれ浦を
実家
同
 蛇のまゝなる乃浦は乃らるる乃とて乃網よささうぬ
高隆

名越 邑

同

名越村の歴史 寺哲也取載之

名考
 佐吉はあはれ此の里乃舟は乃と教のぬるはせなりき
好忠
丈木
 白鳥乃まゝ此の里乃と名考のゆゑ秋のさやそあへん
乃家
同
 六月乃あはれ此の里乃何をなれらるる乃これやまは
資隆
同
 六月乃あはれ此の里乃乃見は後とまゝぬれ乃下乃
季隆

瀬田 浦

同

六帖
 まののりくはじあはれ海乃物とら小舟乃一ゆり乃西
素性
後古
 あらのやれあはれ乃海とていへん神れのとまなる記と
後院
月清
 乃乃やれあはれ乃海とていへん神れのとまなる記と
後京
丈木
 若のやれあはれ乃海とていへん神れのとまなる記と
光明
同
 まののりくはじあはれ乃海とていへん神れのとまなる記と
乃家

夫木

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

家長

同

るの浦乃地はるの浦とて松と灯の流を年々越る

廣人
不知

同

はるの浦乃地はるの浦とて松と灯の流を年々越る

国信

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

並濱

橋津 藤盛

名考

わするや新波乃傍れ并濱とて松と灯の流を年々越る

名立浦

同 藤盛

名考

うするや新波乃傍れ并濱とて松と灯の流を年々越る

皇右
官

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

長濱

伊勢 遠江越中三有同名

家集

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

船直

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

文木

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

光昭

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

涙河

同 新字

頃本

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

躬恒

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

伊勢

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

同

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

同

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

同

あしやに流のよる所今の家をいれ地やと睡のよる

名補

協百 同川より流るる水は流すことひたすをいはずして引あり 匡房

同後 ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 歌仲

六百番 流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 信定

同 流は流るるありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 西行

拾玉 北より流るる水は流すことひたすをいはずして引あり 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 慈法

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 俊成

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 家隆

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 法繩

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 宗家

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 院系

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

流川ありてはこれとていふゆへに草花をいふもいふは草花 同

成海

海浦里海溪

尾張

類字

百

いそよれん城ふもやるはじりまきある城くは

小町

同

あると海沖よびきわてわらびれくく船風さく

仲実

同

あると海朝みつ陸やそくらんあふるともそをたつ

強彦

名

後之をれ事とそをたぬあひさるは浦の治れ

慈法

同

いそよれあると海を八倉屋とそをたつて果

玄家

同

いそよれもそをたつにあらる海つをそをたつ

長明

同

あるとわらわの浦やあつて上りくること

景徳

同

若もそはらひあると海にそをたつて旅ねと

静賢

月情

海は危里れあるとあると海をたつて仲

以玄

同

いそよれ海はく旅ねをきつて仲

後涼

同

いそよれ海はく旅ねをきつて仲

隆信

同

いそよれ海はく旅ねをきつて仲

定衡

同

いそよれ海はく旅ねをきつて仲

後成女

同

いそよれ海はく旅ねをきつて仲

内侍

同

いそよれ海はく旅ねをきつて仲

忠定

同

いそよれ海はく旅ねをきつて仲

名家

同

いそよれ海はく旅ねをきつて仲

龍宗

同

いそよれ海はく旅ねをきつて仲

龍宗

同

いそよれ海はく旅ねをきつて仲

龍宗

夫木

あるも海若の浦に... 神と云くらん

安嘉門院

同

と川塩の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

あるも海若の浦に... 塩と云くらん

同

同

少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

散木 松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

五月雨の松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

六月雨の松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

七月雨の松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

八月雨の松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

九月雨の松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

十月雨の松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

十一月雨の松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

十二月雨の松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

松茸乃乃少此社は松茸の清め者也と今夜や月よるは乃水 宗良

長澤池

出江 敷字

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

と一に成るを引合ふあやめ成るを長澤の池と成て 引浦

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

長澤池の池のあやめ成るをともふ成るをありに引合ふけり 後成

同 木 下野 三宮

同 後拾遺 下野 任信

同 木 下野 相模

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

同 木 下野 三宮

春雨

塩うばの浦よりあふや臨みあんとすれり城あり時

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

陸奥乃らるる此沼の水臨ていふあれをも人あめ致

奈曾白橋

出羽

名考
しつゝあるるそれゆ橋なれてしと人どほやまゝ馬渡り水

長湊浦
結登 藤橋 和名結登郡

舟
しつゝ此海は船をたぎる漕ぐれある湊浦は月照紅り

新六
船より舟をぬけまはるる舟をたぎる船の浦

奈兵 浦入口海 越中 仙覚抄三富国

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

舟
舟より舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる舟をたぎる

夫木

夕方猪の塩肉吹くふとれ浦の至死をさたよたつを鳴ぬ

同

妻はまのいけはゆふを引るれつるふみくしんを島に

同

境よりちや果らんをのりもあそくはあまねはれり

長濱

越中

まのつらなる虫はあそくをひのほほとぬらふらふら

奈古継橋

越後 無所村

東路のあはれ継橋海らぬとせよあつたもあやううり

同

うきつらなるやあつたらぬとたそくあつた継橋

夫木

そはれも越橋乃るは継橋とあやうくあやあつた

同

いづれを越橋よまよあつたらぬは継橋とあやう

原稿

北の松乃あつた村の里人あやうくあつた月よあつた

夫木

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

長尾山

同

松の原とあつたあつたあつたあつたあつたあつた

長尾山

同

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

長尾村

同

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

丈木 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
後集

同 其の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
中務

同 長田の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
親絶

同 命をさして田のたてありしに山をたてて田を治るるありしに
為親

同 西宮の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
兼仲

同 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
資忠

丈木 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
後集

同 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
不為

同 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
不為

家集 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
教隆

丈木 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
定首

丈木 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
先補

名寸隅 舟船 同 藤塩 一

方六長年 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
金村

同 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
同

丈木 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
同

丈木 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
先俊

同 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
同

同 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
同

同 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
同

丈木 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
同

丈木 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
同

同 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
同

同 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
同

同 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
同

同 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
同

同 此の所の敷をさして山をたてて田を治るるありしに
同

千石の... 為政

長井 脩中 藤盛

千石の... 漢人 不知

長尾村 同 教字

後三条院時大嘗會脩中國奇

新拾 今新集と思ふべき也凡の村の... 延壽

長等河 同 教字

凡雅 収の... 陸脚

ま木 毛の... 陸脚

鳴門 周防 藤盛河波二有同名

万十五 鳴門の... 延壽

名集 大鳴の... 延壽

大鳴の... 延壽

大鳴の... 延壽

長門浦 長門 勅撰名取集二當国

万十三 しまら梅... 延壽

長門鳴 同 勅撰名取集并 八雲所抄二當国

万十五 長命とあり... 延壽

同 萬の... 延壽

千五百 名草山 紀伊 教字

万七 名草山 紀伊 教字

万七 名草山 紀伊 教字

万七 名草山 紀伊 教字

万七 名草山 紀伊 教字

万七 名草山 紀伊 教字

万七 名草山 紀伊 教字

色とていふは色にあらざるは漢の古集にさす常女絶を

同 いろぬやろあふぬはてはは名を其漢は松ありとせ 清正

同 いろぬとていふは色にあらざるは漢の古集にさす常女絶を 氣浦

永徳 あらぬの列をぬぬは漢の古集にさす常女絶を 俊成

千五百 女を名を其漢の漢村の古集にさす常女絶を 家

夫木 いろぬとていふは色にあらざるは漢の古集にさす常女絶を 有家

同 いろぬとていふは色にあらざるは漢の古集にさす常女絶を 有

同 いろぬとていふは色にあらざるは漢の古集にさす常女絶を 有

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

色とていふは色にあらざるは漢の古集にさす常女絶を

同 いろぬやろあふぬはてはは名を其漢は松ありとせ 清正

同 いろぬとていふは色にあらざるは漢の古集にさす常女絶を 氣浦

永徳 あらぬの列をぬぬは漢の古集にさす常女絶を 俊成

千五百 女を名を其漢の漢村の古集にさす常女絶を 家

夫木 いろぬとていふは色にあらざるは漢の古集にさす常女絶を 有家

同 いろぬとていふは色にあらざるは漢の古集にさす常女絶を 有

同 いろぬとていふは色にあらざるは漢の古集にさす常女絶を 有

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

名高浦 紀伊仙覺抄

忍草

玉

夫本

同

同

同

同

同

同

同

十首

雲うらあち山陰のあそびみまねもく北のさきよのや

雲うらあち山陰のあそびみまねもく北のさきよのや

雲うらあち山陰のあそびみまねもく北のさきよのや

雲うらあち山陰のあそびみまねもく北のさきよのや

雲うらあち山陰のあそびみまねもく北のさきよのや

雲うらあち山陰のあそびみまねもく北のさきよのや

雲うらあち山陰のあそびみまねもく北のさきよのや

雲うらあち山陰のあそびみまねもく北のさきよのや

雲うらあち山陰のあそびみまねもく北のさきよのや

雲うらあち山陰のあそびみまねもく北のさきよのや

雲うらあち山陰のあそびみまねもく北のさきよのや

七越歌

紀伊

徳師一集りあかりはるのあしはるの月とんくある

山家集

雲の月分乃あそびみまねもく北のさきよのや

鳴滝

同

類字 牟婁郡

新古

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

鳴耶濱

同

藤垣

懐中

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

鳴耶濱

同

藤垣

鳴門 浦

何波

六作 ちるせりやとせやとらるるの塩は海斗と云ひあり 千里

家集 海斗舟鳴門よりやと漕出るる乃滴は是もつらみそ 安宮

同 青ふとく鳴門はもといふさける蛇は傳はせぬと云ふ 忠見

同 乃るまといふの心はありしを何は伝はせぬと云ふ 永塚

同 風をやく鳴門乃浦舟よりとるると是れあかぬなり 大進

拾六 較ありす鳴門乃浦舟よりとるると是れあかぬなり 慈法

同 是れあかぬ鳴門乃浦舟よりとるると是れあかぬなり 同

名表 ともは海ありは鳴門といふなりと云はるるは是れあかぬ 吾名

同 甲れ蛇いさるとは伝はせぬと云はるるは是れあかぬ 仲正

同 夫の系伝はるるとは漕出たは是れあかぬと云はるるは是れあかぬ 重之

同 治そとれ伝はるる浦は是れあかぬと云はるるは是れあかぬ 同

同 日暮れいさるとありぬあかぬ鳴門乃浦舟より塩は是れ 俊れ

千五百 考ふとくありとれ浦の塩は是れあかぬと云はるるは是れあかぬ 俊れ

末本 伝はれ去るる乃浦舟よりとるるとは是れあかぬと云はるるは是れあかぬ 慈法

同 塩風乃るるや舟に何りち鳴門のひらきと云はるるは是れあかぬ 為家

同 之も事あるとれ浦は是れあかぬと云はるるは是れあかぬ 相摸

同 是れあかぬと云はるるは是れあかぬと云はるるは是れあかぬ 家長

同 以そそやちりてわたりて舟をあらはせしと云はるるは是れあかぬ 俊れ

同 中水門 同 仙覚抄巻四

万二長舟 天地乃日月と云ふみち極之神乃清高と云はるるは是れあかぬ

あり乃みるるといふ舟は是れあかぬと云はるるは是れあかぬ

や雲井はあかぬと云はるるは是れあかぬと云はるるは是れあかぬ

白浪とていふと海とていふと舟乃

名越山 六枕 藤植

万十 名越とていふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

六月乃ちうれ山の呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

六月乃ち後川系れ海とていふと元久ひとせねぬあまた

吹風とていふと此山乃橋たてとていふと元久ひとせねぬあまた

名見山 菰前

名見のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

浪懸岸 同 藤植

浪懸のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

懐中 名越のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

名越のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

松乃福のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

系元木森 大隅 数字

系元木森のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

系元木森のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

系元木森のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

系元木森のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

系元木森のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

系元木森のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

系元木森のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

系元木森のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

系元木森のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

系元木森のいふと此山乃呼ぶるを元久ひとせねぬあまた

名考
よのつとれは乃物くを信人乃るをこれにわたりとこれに傳さる
二品 親王

名欽山
射馬 仙芝抄三當國或播磨

あまのつとれは乃物くを信人乃るをこれにわたりとこれに傳さる
同 同

余とつとれをえしこれにわたりとこれに傳さる
同 同

七瀬
末勅

志とつとれは乃物くを信人乃るをこれにわたりとこれに傳さる
同 同

情山
同 藤塩

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

長谷園
同

懐中
あはれやる浦よ行てふ
蛸もれや塩よとあれて夜らけり

夫木
あはれやる浦よ行てふ
蛸もれや塩よとあれて夜らけり

同
あはれやる浦よ行てふ
蛸もれや塩よとあれて夜らけり

同
あはれやる浦よ行てふ
蛸もれや塩よとあれて夜らけり

同
あはれやる浦よ行てふ
蛸もれや塩よとあれて夜らけり

流木森
あはれやる浦よ行てふ
蛸もれや塩よとあれて夜らけり

夫木
あはれやる浦よ行てふ
蛸もれや塩よとあれて夜らけり

あはれやる浦よ行てふ
蛸もれや塩よとあれて夜らけり

あはれやる浦よ行てふ
蛸もれや塩よとあれて夜らけり

松葉名取和歌集第六終

典侍

親子

和泉

式部

後人

不知

六家院

